

第31回（2015年度）マツダ財団支援

# 市民活動概要

公益財団法人 マツダ財団

The Mazda Foundation

## 設立趣意書

我が国経済はめざましい成長を遂げ、今日多くの国民が、日常生活の中で豊かさを享受しております。

これには、科学技術の発展のあずかるところが大きく、産業界も厳しい環境を克服し、高度の技術革新をすすめることでその一翼を担ってきました。換言すれば、天然資源に恵まれない我が国は、人びとの英知と勤勉さを資源として科学技術の振興を図ることによって、国際社会に伍し、社会経済の発展を成し遂げてきたといえます。このことは、未来社会においても同様であると考えます。

一方、急速な経済成長は、国の内外における様々な分野で新しい課題を提起してきました。工業化社会、さらには情報化社会の進展による社会環境の変化が、青少年の社会生活に多様な影響を及ぼしていることもその一つであります。物質的な豊かさが精神的な豊かさをもたらさず、むしろ青少年の心の荒廃を加速しているのではないかと指摘されています。心身共に発達形成期にある青少年の育成に、今まさに適切な施策や方途を講ずることが望まれる所以であります。

人びとが共に繁栄を分かち合い、心豊かに生きることのできる社会の実現を願うとき、調和のとれた科学技術の発展と、将来これらを担うべき青少年の健全育成とが相まって達成されていくことが大切と考えます。

マツダ株式会社は、新しい価値を創造し、人びとの喜びをひろげていくことを経営理念として社業に精励しておりますが、このほど実施した社名変更を記念し、併せて創立 65 周年を来年に控えたこの時期に、経営理念の一端を具現することを願って、科学技術の振興と青少年の健全育成のための助成等を主な事業内容とするマツダ財団を設立し、広く社会の発展に役立てようとするものであります。この財団の趣旨が我が国だけでなく、国際的なひろがりの中で活かされれば、これに過ぎる喜びはないと考える次第であります。

昭和 59(1984)年 10 月

## 目的及び事業

目的： 本法人は、科学技術の振興並びに次代を担う青少年の健全育成のための助成等を行い、もって世界の人びとが共に繁栄を享受し、心豊かに生きることのできる社会づくりに寄与することを目的とする。

事業： この法人は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1)科学技術の振興に寄与する研究並びに諸事業に対する助成
- (2)青少年の健全育成に寄与する研究並びに諸事業に対する助成
- (3)科学技術の振興及び青少年の健全育成に関する講演会、シンポジウム、講座、セミナー等の開催
- (4)その他この法人の目的を達成するために必要な事業

# マツダ財団は

科学技術の振興  
青少年の健全育成

分野の社会貢献を行っています。

## 科学技術の振興

- 研究助成  
募集期間：例年4月～5月頃  
現在並びに将来にわたって解決が求められている、科学技術に関する基礎研究及び応用研究に対する助成。「若手研究者」、「萌芽的研究」、「循環・省資源への寄与」を優先して助成。この中から特に優れた研究に対して授与する「マツダ研究助成奨励賞」も併設。  
対象は、全国の大学及び研究機関。  
(累計件数 784件 累計金額 10億6,650万円)
- 事業助成  
募集期間：例年4月頃  
中国地方で開催される小中高の生徒を対象とした「科学体験」に関する研究会等に対する助成。  
対象は、中国地方の大学及び研究機関、民間非営利団体。  
(累計件数 316件 累計金額 3,436万円)
- 科学わくわくプロジェクト  
青少年の科学離れへの対応として、小中学生や高校生を対象に科学にわくわくする機会を提供し、「科学するところ」を養うことを目指した事業。  
広島大学との連携で、同大学の知的資源を活用した地域貢献プログラムとして実施。



## 青少年の健全育成

- 研究助成  
募集期間：例年4月～6月頃  
次代を担う青少年の健全育成に寄与する研究に対する助成。市民活動との連携強化を図り、市民活動活性化に寄与する実践的な研究に注力。対象は、全国の大学及び研究機関。  
(累計件数 180件 累計金額 1億8,148万円)
- 市民活動支援  
募集期間：例年10月～翌年1月頃  
次代を担う青少年の心豊かな成長の一助となる、地域に密着した活動に対する、資金・人材・ノウハウにわたる総合支援。対象は広島県及び山口県の青少年関係の民間諸団体。  
(累計件数 643件 累計金額 1億9,135万円)
- 感動塾・みちくさ  
児童・生徒、指導者、ボランティアの創意工夫を育む「感動塾・みちくさ」を開催。(公財)広島市文化財団との共催。
- スタートラインプロジェクト  
被虐待児等の成長や、それを支えるスタッフの能力開発を支援する事業。NPO法人ピピオ子どもセンターとの連携。
- 大学講義  
広島地区の大学を対象に開催。2016年度は、広島修道大学にて「ボランティア活動」を実施。
- 講演会  
本財団の活動主旨を広く皆様に知っていただく活動の一つとして開催。  
2011年11月 姜尚中氏 「『悩む力』とこれからの日本」  
2012年11月 立花 隆氏 「二十歳(はたち)の君へ」  
2013年11月 阿川佐和子氏 「聞く力」  
2014年 8月 美輪明宏氏 「子供の教育、親の教育」  
2015年11月 池上 彰氏 「学び続ける力」

(数値は2016年7月1日現在)

名称： 公益財団法人マツダ財団  
設立： 1984年10月26日  
公益法人への移行： 2010年11月1日  
所管行政庁： 内閣府  
事業の概要： 世界の人びとと共に繁栄を享受し、心豊かに生きることのできる社会づくりに寄与するため、科学技術の振興及び青少年の健全育成に寄与する研究・諸事業に対する助成、講座・セミナー等の事業を行う  
住所： 広島県安芸都府中町新地3番1号 マツダ株式会社内 〒730-8670  
電話番号： (082) 285-4611  
ファックス： (082) 285-4612  
E-mailアドレス： mzaidan@mazda.co.jp  
ホームページ： http://mzaidan.mazda.co.jp/

# マツダ財団 第31回市民活動支援一覧 —青少年健全育成—

※下記一覧の団体名等は、申請応募時の記載に従う。

活 動 名	団体名	ページ
再非行と非行防止、青少年の健全育成のための活動	食べて語ろう会	1
防災教育を進め備えよう	防災教育を進める北小と地域の会	3
ホテル飛び舞う本郷川 ～地域と共に 地域で学ぶ 今津っ子～	今津にホテルを増やし隊	5
自分がすき、学校がすき、地域がすき そして田島の自然が大すき	見たい・知りたい・内浦探検隊	7
カンナがつなぐ 平和のバトン —カンナ プロジェクト	広島市立大州小学校 カンナプロジェクト	9
地域住民と児童で多様性ある河川にする活動	正木地区ホテルの里復元会	11
子どもたちに「生きる力」をつける「六区子ども塾」	大野第六区子どもの居場所づくり委員会	13
彩が丘団地「元気ベンチ」プロジェクト	広島市佐伯区彩が丘連合町内会	15
東城応援隊（地域おこしボランティア活動）	まちなみ保存振興会（東城応援隊）	17
ぎおん遊び隊	祇園まちづくりプランプロジェクト	19
小中高生およびその保護者を対象としたミニミニ外国体験イベント	NPO 法人 ミニミニ外国 in 広島	21
ひろしま子ども議会 2015 ～ひろしまの未来を考えよう～	一般社団法人 広島青年会議所 子供の自立育成委員会	23
夏休みこども保養キャンプ「ひろしま7日間冒険の旅」	広島県シェアリングネイチャー協会	25
次世代リーダー育成「将来の夢を描くドリームマップ」を作ろう！ in HIROSHIMA	一般社団法人 ドリームマップ普及協会 広島支部	27
障がい児・者を対象とした、音楽療法グループ“ピリカ”	音楽療法グループ ピリカ	29
湯来こども探検隊	湯来のまち再生プロジェクト協議会	31
体験しながら学ぶ、ソーシャル・スキル・トレーニング（SST）活動	クローバーの会（発達障がい児を持つ親の会）	33
自然体験・科学研究支援事業	広島干潟生物研究会	35
中学生・高校生の能楽塾	たつじんくらぶ	37
ぐるぐる島ペインティングプロジェクト 一島の地域資産を活用した島の未来を担う人材教育—	ぐるぐる海友舎プロジェクト実行委員会	39
2015 あきおた国際音楽祭 with Bechstein	あきおた国際音楽祭 実行委員会	41
自転車文化の創造を担う大学生・高校生を対象とした次世代リーダー育成プログラム	ひろしま輪輪プロジェクト	43
光と森のカーニバル	NPO 法人 LOVE ECO 周南	45
おごおりウィークエンドアドベンチャー	おごおりウィークエンドアドベンチャー実行委員会	47
学校・地域・ちびっこが奏でる三つ巴のハーモニー！！	遊楽の里	49
三世代ふれあいの活動	右田教育会	51
創作神楽「斉熙公と国の春」による青少年健全育成	創作・風鎮神楽会	53
虹の鯉のぼりプロジェクト	浅江まちづくりの会	55
次代を担う子ども育成プロジェクト 幕末体験「育英塾」	幕末体験「育英塾」実行委員会	57
夢サポート ながとリーダー養成講座	夢サポート ながとリーダー養成講座実行委員会	59
合 計	30件 800万円	

<b>活動名</b> 再非行と非行防止、青少年の健全育成のための活動	<b>団体名</b>	特定非営利活動法人食べて語ろう会
	<b>地域</b>	広島県広島市
	<b>代表者</b>	副代表 田村 美代子
	<b>支援金額</b>	20万円
<b>活動概要</b>		
<p>1. さまざまな事情により家庭で満足に食事が摂れないために、万引き等の非行に陥った子供たちに、手料理を提供し、悩みを聞くなどしての立ち直りの支援。</p> <p>2. 毎日の食事作り、講演会・交流会（食事会）・各関係機関との連携</p> <p>3. 再非行をした子供たちの保護者への子育てに関するアドバイスと支援</p> <p>4. 研修会、運営会議</p> <p>◆実施時期・回数</p> <p>1 食事の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「横川の家」（広島市西区）で不定期に</li> <li>・中央公民館（広島市中区）で毎月第1・第3日曜日</li> <li>・中本忠子理事長宅（広島市中区）でほぼ毎日</li> </ul> <p>2 講演会・交流会 9/6（日）中央公民館 視聴覚室・実習室</p> <p>3 上記活動のための研修会・会議等（中央公民館・バラ園他）を30回/年</p> <p>◆参加人数</p> <p>食事の提供 約2,580名、講演会・交流会 約50名</p> <p style="text-align: right;">参加総人員約2,630名</p>		



調理風景



公民館バザー おでん販売



バザーでの調理風景



NPO 法人として認証を受け、設立総会を開催

#### ◆実施に伴う効果

1. 食べて語ろう会に来る少年たちによる万引きやカツアゲなどの非行が減少している。
2. 中本忠子理事長の活動が広く知られるようになり、テレビ・新聞等の取材を受けることが多くなった。また、11月には社会貢献支援財団から表彰を受けた。
3. 貧困等のために食事を満足に摂ることができない子供たちに、無料で食事を提供する子供食堂が全国的に広がっている。この活動の先駆をなしたのが中本忠子と食べて語ろう会。

#### ◆苦労した点

- ・食事の提供は毎日のことですから、食料費がかさむということ。少ない予算で、栄養に富み、たくさんの量の料理を作るために苦労している。
- ・ワンルームマンションを借りて「横川の家」を開設したが、部屋が狭いために、多くの子供を受け入れることができない。また、マンションの入り口はオートロックなので、ドアホンを鳴らして開けてもらう必要があるが、子供たちはそれをいやがる。料理を作るスタッフも足りない。
- ・中本忠子やスタッフが留守の時、ご飯を食べることができなかった子供が万引きをすることがあるということ。

#### ◆今後の課題・発展の方向性

- ・新しく店舗、もしくは住宅を借り、そこで食事を提供し、「横川の家」は自宅に帰ることができない子供のためのシェルターにしたいと考えている。しかし、そのためには常駐できるスタッフが必要ですし、給料も支給しなければならない。スタッフになるための研修も必要ですが、現在はそうしたことができるだけの状況ではない。
  - ・いかにして若い人にスタッフになってもらい、活動の幅を広げていくか、そして子供たちやその保護者の相談に応じることができる経験豊富な人に協力してもらうかが今後の課題。それは、人材とお金の不足をどうするかという問題でもある。
- また、来年度には認定NPO法人として認定を受けられるよう目指している。

#### ◆活動を終えての感想・意見等

食べて語ろう会の活動には、これでおしまいということがありません。毎日休むことなく継続していく活動です。マツダ財団の助成金のおかげで、食事によって非行少年を支える活動、そして3度の食事すら摂れない少年たちがいることを多くの人に知ってもらう広報活動ができることに感謝しております。ありがとうございます。

<b>活動名</b> 防災教育を進め備えよう	<b>団体名</b>	防災教育を進める北小と地域の会								
	<b>地域</b>	広島県安芸郡								
	<b>代表者</b>	府中北小学校 校長 後藤 ひとみ								
	<b>支援金額</b>	46万円								
<b>活動概要</b>										
<p>府中北小学校の空き教室を防災教育を進める拠点と、地域の災害発生時の対応拠点として整備し、北部町内会長連合会を中心とした地域住民と学校で連携し、以下の活動を行い防災への意識を高める。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 防災に関する展示や災害発生時活用できる「防災のへや」を6年児童が地域住民の協力を得て作る。(阪神淡路大震災・東北大震災の被害状況・ボランティア活動のパネル、非常用持ち出し袋の内容、非常食、災害発生時の3日分の学校給食保存食での炊き出しメニュー等展示、ホワイトボード設置等)</li> <li>2. 全学年での防災教育の実施とマニュアル化 (DVD活用、体験者の体験談等)</li> <li>3. 減災講演会の実施 (元県危機管理対策監籠田純士氏を招聘し、教職員と地域住民と共に学び考える。)</li> <li>4. 北部地域対象の防災訓練の実施とマニュアル化、学校給食3日分備蓄食料での炊き出しの実施を行う。</li> </ol> <p>◆実施時期 2015年4月6日～2016年1月31日</p> <p>◆参加人数</p> <table> <tr> <td>通常の活動 (児童54名+教諭2名+地域住民1~9名) ×6</td> <td>354名</td> </tr> <tr> <td>減災研修会 (教職員, 地域住民)</td> <td>55名</td> </tr> <tr> <td>防災の日・講演会 (児童276名+地域・保護者46名)</td> <td>322名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>参加総人員 731名</td> </tr> </table>			通常の活動 (児童54名+教諭2名+地域住民1~9名) ×6	354名	減災研修会 (教職員, 地域住民)	55名	防災の日・講演会 (児童276名+地域・保護者46名)	322名		参加総人員 731名
通常の活動 (児童54名+教諭2名+地域住民1~9名) ×6	354名									
減災研修会 (教職員, 地域住民)	55名									
防災の日・講演会 (児童276名+地域・保護者46名)	322名									
	参加総人員 731名									



6月 広島市の土砂災害の被害状況等を調べる学習



7月 防災教育研修会を実施。講師 減災塾塾長 籠田 純士 氏



11月上旬 「防災の日」の避難訓練後、中間発表。



11月下旬 「防災のへや」づくり。地域の方々と作成。

#### ◆実施に伴う効果

- ・防災教育に取り組んでいることを校長便り等で定期的に伝えたため、府中町消防署等校区外からも講師等の協力の申し出が得られた。
- ・特に6年児童の意識が防災意識が高まり、急遽修学旅行の訪問先に「人と防災未来センター（神戸市）」を加え学習を進める等、学びが加速された。
- ・防災教育への取組を地域と連携して具体的に始め、防災教育の推進につながった。

#### ◆苦勞した点

- ・予算はマツダ財団からの助成を頂き解決し、「防災のへや」作りにとりかかることができた。
- ・外部へのPRについては、あらかじめ情報発信を定期的に行っていたため、そのルートを使い順当に進んだ。講演会等については特化してPRをした。
- ・参加者については、年度当初に北部町内会の会合に足を運んで協力を要請した。地域の方に地域の窓口になって頂いて声かけをお願いしたが、日時によっては少ないこともあった。
- ・地域の理解は活動の趣旨が伝わるにつれ、少しずつ進んできた。それに伴って、防災頭巾を一緒に作るという民生児童委員さんたちからの申し出や、府中消防署の協力も得られるようになった。日程調整や協力者への連絡、対応に気を配った。

#### ◆今後の課題・発展の方向性

- ・当初、4月から3月末までという長期間の活動として設定していたが、卒業を前に中学進学に向けての学習が入ってきて1月からは時間を確保しにくかった。手探り状態でスタートしたので来年度はもう少し段取り良く進めたい。
- ・教育研究会（1月22日）当日には、6年2組が研究授業（総合的な学習の時間「防災意識の向上プロジェクト」）を行い、4月からの防災学習で学んできたことを公開する。また、当日は「防災のへや」を来校者に公開する。その日の反省を今後の学習の方向に反映させていきたい。
- ・引き続き、地域に理解と協力を求め、地域のためにもなるように連携を進めていきたい。

#### ◆活動を終えての感想・意見等

市民活動助成をこの活動に受けられたことは、予算面だけでなく気持ちの面で支えになり、活動の追い風になりました。学校の活動を外部へ知って頂くことは学校を開くことであり、趣旨を説明したり活動計画を伝えるように作成したりと、することは増えますが、地域や他の団体と積極的に接触して学ぶことができ、とても遣り甲斐を感じました。

マツダ財団としての社会貢献活動にご縁があったことで、マツダについての理解も自動車販売以外に会社としての理念や活動の内容、他団体の活動等を知ることができ、視野を広げることができたと感謝しております。子どもたちも、マツダ財団の支援を受けて防災教育を進めることを知り、マツダに感謝と親近感を抱いております。

活動名 ホタル飛び舞う本郷川 ～地域と共に 地域で学ぶ 今津っ子～	団体名	今津にホタルを増やし隊
	地域	広島県福山市
	代表者	今津小学校 校長 戸羽 純士
	支援金額	25万円

活動概要
<p>校区を流れる本郷川では、ホタルが年々減りつつある。川の水質低下と河川敷に心ない人によるゴミ、空き缶のポイ捨て、家庭から流れる生活排水が原因ではないかと子ども達は考えた。福山市環境啓発課の協力のもと、川の水質検査を通して、ホタルが生息する川にするにはどうすることが大切かを学んだ。学んだ事を学校にも地域にも、ホタ音頭の踊りやポスター作成、実際の川掃除など、地域への環境保全意識の広がりをねらい、以下の活動を行った。</p> <p><b>◆実施時期・参加人数</b></p> <p>4月 今津小学校全校児童にて「今津にホタルを増やし隊」の結成。 <b>参加者 48名</b></p> <p>5月 今津小学校運動会のプログラムに組み入れてもらい、「ホタ音頭」を3年生の協力を得て披露。目的は地域の文化財産を増やしていくこと。 <b>参加者 100名</b></p> <p>6月 本郷川水質検査を環境啓発課の指導の下で実施。 <b>参加者 48名</b></p> <p>6月3日～5日 本郷川水質低下や環境を守ろう、守っていくことを決意という発表原稿を作成。 <b>参加者 48名</b></p> <p>6月6日「ホタルの夕べ」に参加。羽田皓福山市長等の来賓の方々、今津町内の皆様の前で本郷川の環境保全を訴え、ホタ音頭を踊った。 <b>参加者 37名</b></p> <p>10月 本郷川水生生物調査を実施。 <b>参加者 48名</b></p> <p>10月21日 活動計画にはなかった空き缶リサイクル活動のテレビ取材を受けた際、児童の希望で「ホタ音頭」を踊らせてもらった。 <b>参加者 48名</b></p> <p>11月 昨年度今津ホタルの館館長さんより頂いたホタルの卵から幼虫を育成し年間を通じて世話をしてきた。その幼虫を本郷川に放流し活動を終了。 <b>参加者 48名</b></p> <p style="text-align: right;">参加総人員 425名</p>



今津小学校運動会でホタ音頭を披露



ホタルの夕べ  
出演者紹介のアナウンスを聞いて法被を自慢



ホタルの夕べで研究発表



水生生物調査中

#### ◆実施に伴う効果

本活動を数年継続してきたが、今年度マツダ財団より援助を受け、ホタ音頭を踊る際に法被を揃えることができた。地域の皆様から「ホタ音頭が音頭らしくなってきたね」と、感想を頂いた。また、今津町自治会連合会も刺激になり、地域の文化祭など催しがある時には、ホタ音頭を地域の方々も踊られたり、音楽が流されるようになってきた。また、手作りのホタマンのキャラクターを制作されたり、缶バッジ・Tシャツを作成し、広く市民にホタルを大切にする町作り活動を広める機会となっている。

#### ◆苦労した点

- ・ホタ音頭を使って広く今津町内の皆様に活動を知って頂くためには、おそろいの法被を用意することが不可欠だった。助成をいただきましたが、助成金にみあう法被を調達するのに苦労した。
- ・その他、参加者・地域の理解等は、別段問題はなかった。

#### ◆今後の課題・発展の方向性

- ・今年度あたりから、自治会を含めた地域の皆様から賛同する意見が多く寄せられ、活動が盛り上がりを見せている。また、地域も盛り上がりを見せている。キャラクター「ホタマン」が手作りで制作されたり、地域の安全パトロール会（登下校の安全を見守る会）のユニフォームにキャラクターを使って頂いた。今後、「今津町とは？」と問われたら、歴史あふれる史跡の町とホタルの保存を呼びかける町と、世間に知れ渡るような町にしていきたいと考え、ホタルを増やし隊の活動を継続していくことを考えている。

#### ◆活動を終えての感想・意見等

- ・ホタルを増やし隊の活動メンバーである4年生が、法被を揃えたことによって団結力を強め、活動を広めていこうと意欲を継続して活動できたことがよかったと思います。この度、このマツダ財団の助成を受けるにあたり、大変ありがたく、また、助成を受けられたことを光栄に思っております。

活動名 自分がすき, 学校がすき, 地域がすき そして田島の自然が大すき	団体名	見たい・知りたい・内浦探検隊
	地域	広島県福山市
	代表者	内浦小学校 校長 田口恵子
	支援金額	30万円
活動概要	<p>内浦探検隊の活動は、田島に生まれ育った子どもたちが、海で生きてきた人々の素晴らしい技術や知恵、温かさを自ら探り、肌で感じ、海を守り島の魅力を発信することを目的とした活動である。田島の人々の生き方や知恵を調べ、調べたことをまとめ、劇にしたり、プレゼンテーションしたりして文化祭や小中合同発表会、環境発表会等で発信した。伝えたい場所や様子を写真に撮り、俳句を添え、ふるさと内浦を広くアピールするための「内浦30選」のパネルを作成した。本校の伝統になっている調べ学習をもとにした劇の貴重なシナリオ30年分を4冊の本にまとめ、保護者・地域の方に配布、資料館にも寄贈した。</p> <p>◆実施時期 2015年4月～2016年1月</p> <p>◆参加人数 調べ学習、発表（文化祭）に向けての練習・準備・当日お手伝い 48名 (児童15人+講師等5人+教職員・地域24人+協力者4人) 写真、俳句の取材・作成 24名 (児童15人+講師1人+教職員8人) 資料作成 8名 (協力者)</p> <p style="text-align: right;">参加総人員 75名</p>	



うしお祭劇 1



うしお祭劇 2



フィリピンに移住していた田島の方からの聞き取り



天神社見学

#### ◆実施に伴う効果

毎年地域の調べ学習をしているが、今年度は「フィリピン移民の歴史」ということで、講師を招聘したり校区外へ行って確認をしたり調べたりすることが多く経費もかかった。しかし、この歴史を調べ劇化したことを、新聞で多くの方にPRしていただいたことも合わさって、地域の方や地域外からも文化祭に来ていただいた。このような歴史があったことを初めて知ったという声もあり、今後もこのような活動を進めていくよう地域から賛同を得た。

子どもたちにとっても、大作をやり終えたことで、故郷を大切に思う気持ちと、人前に立つ自信をもつことができた。さらに、来年度は、自らの調べ学習を中心として、地域を巻き込んだ主体的な学習ができると考える。今年度のシナリオとDVDを県立図書館と国立図書館へも寄贈予定である。また、児童の撮影した写真、俳句による「内浦30選」のパネルを作成、うしお祭における故郷をテーマにした調べ学習の成果としての劇のシナリオ集30年分を「ふるさとをつなぐ」として本にまとめ配布した。地域の歴史資料館にも寄贈した。今後貴重な資料として残るであろう。

#### ◆苦勞した点

特に苦勞と感じたことはなかった。支援を受け、今までの念願だったことが実現する喜びの方が大きかった。地域からの理解も得ることができ、外部へのPRも新聞に載せていただくことができた。

#### ◆今後の課題・発展の方向性

今後、「見たい・知りたい・内浦探検隊」は、さらに児童の主体的な調べ学習を大切に、途切れることなく、地域の歴史の掘り起こしをしていくものにしていきたいと思う。本校では、海についての環境教育も進めていて、海のゴミ拾いを学期に1回地域・保護者と共に行っている。海の環境を守ることは、海を知ることから始まる。ゴミにだけ目を向けるのではなく、来年度は、探検隊の活動で地域の海の生態にも目を向けさせ、主体的に守ろうとする気持ちから環境教育を進めていこうと考えている。

#### ◆活動を終えての感想・意見等

今回、ご支援をいただき、児童と共に地域の探検、うしお祭での発表、そして、是非やりたいと思っていた地域のPR、地域の大切なものを繋いでいく冊子ができましたこと、児童と共に喜び大変満足しています。支援があったからこそ実現できたことです。作成した財産を有効活用することと、今後も、児童と共に更なる地域探検を楽しく実のあるものにしていきたいと思います。  
ありがとうございました。

活動名 カンナがつなぐ 平和のバトン —カンナ プロジェクト	団体名	広島市立大州小学校 カンナプロジェクト
	地域	広島県広島市
	代表者	教頭 増田 紀美
	支援金額	20 万円
活動概要		
<p>被爆後 75 年間は草木も生えないだろうといわれた広島に、わずか 1 ヶ月後に咲いたといわれるカンナの花を、自分たちの町に植えることを通して、平和について考え、行動する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大州小学校からマツダスタジアムまでの道沿いにカンナの花を植え、「カンナロード」をつくり、世話をする。</li> <li>・カンナの球根を育て、増やしていく。</li> <li>-平和集会・参観日・平和マラソン・歌などを通して、この活動を広める。</li> </ul> <p>◆実施時期 2013 年度～3 年計画</p> <p>◆参加人数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①平和記念資料館派遣講師の講話聴講、「こどもピースサミット 2015」作文執筆。(4 月 28 日) : 六年生 62 名 教員 4 名</li> <li>②女学院大学三柘正典先生作詞作曲「育てよう 咲かせよう 届けよう」歌練習開始 : 六年生 62 名 教員 4 名</li> <li>③俳句づくり、カンナTシャツ図案を考える (5 月下旬～) : 六年生 62 名</li> <li>④学校花だん、カンナの植え付け (5 月 25 日) : 六年生 62 名 教員 4 名</li> <li>⑤大州街道沿いの会社・店などに今年度のお願い (7 月 2 日) : 六年生 62 名 教員 4 名地域・保護者の方</li> <li>⑥平和集会 (7 月 6 日) : 全校児童 教員</li> <li>⑦「キャッチボールクラシック」参加 (7 月 18 日) : 6 年生 12 名</li> <li>⑧広島国際平和マラソン参加 (11 月 3 日) : 6 年生 56 名 1 年生 2 名 教職員他 10 名</li> <li>⑨越冬の世話 (12 月下旬～) : 6 年生 62 名 教員 4 名</li> <li>⑩大州街道沿いの会社・店などに三年間のお礼と来年度からのお願い。 : 6 年生 62 名 教員 3 名</li> <li>⑪カンナロードプロジェクト引継ぎ式 (3 月) : 6 年生 62 名 5 年生 41 名 教員 5 名</li> </ol> <p style="text-align: right;">参加総人員 947 名</p>		



三柘先生に作って頂いた「育てよう 咲かせよう 届けよう」の歌を練習



地域の方々とカンナの手入れをしました



平和集会で「カンナロードプロジェクト」の取り組みを発表



「ひろしま国際平和マラソン」に参加

#### ◆実施に伴う効果

- ・児童が、「自分たちにできる平和への活動」として取り組むことができた。
- ・大州小学校の伝統として、先輩から引き継いだものを継続し、広げることができた。
- ・地域の方に、カンナの花のことや、子どもたちの取り組みを理解して頂き、来年度からも引き続き地域でカンナを育ててくださるなど、たくさんの協力を得ることができた。
- ・保護者を通して校区外の方にも取り組みを理解して頂き、カンナを育ててくださることになった。

#### ◆苦勞した点

- ・屋外での活動のため、熱中症対策が必要だった。マツダスタジアムの方々にお世話になりました。ありがとうございました。
- ・プロジェクトに賛同してくださる方を新規に多く増やすことができなかった。
- ・来年度の予算（カンナTシャツ・・・）

#### ◆今後の課題・発展の方向性

- ・3年計画「カンナロードプロジェクト」は今年度で終了。今後は「カンナプロジェクト」としての取り組みを計画していく。
- ・校内のカンナを育て、増やしていく。

#### ◆活動を終えての感想・意見等

3年計画「カンナロードプロジェクト」の3年目を迎えた今年度も、継続してマツダ財団からのご支援をいただくことができました。

このプロジェクトでご協力いただいている地域の方々と接することで、自分たちの活動が地域に発信されていることを肌で感じることができました。また、マツダスタジアムに咲くカンナを見る市外・県外の多くの人々にも、平和について考えてもらえるきっかけになってほしいと思います。子どもたちがこれまでに平和学習で学んできたことを、具体的な活動を通して発信していくよい機会となりました。これからも、広島に育った子どもとして、平和について自分の考えをもち、行動していくことのできる人になってほしいと思います。

活動名  地域住民と児童で多様性ある河川にする活動	団体名	正木地区ホタルの里復元会
	地域	広島県広島市
	代表者	会長 世羅 宏二
	支援金額	30万円
活動概要		
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ホタルの里復元活動を通じて地域の活性化を図る。</li> <li>2. ホタルの生態を通じて河津川、大槌川、栃谷川の動植物の生態観察。</li> <li>3. 地区内の環境整備と女性会による花壇の整備。</li> <li>4. 景観整備と水質の向上のため水車の設置。</li> <li>5. 木材を使いホタルのペンダントの作成。</li> <li>6. ホタルの里への道しるべ、のぼりの制作、駐車場の整備。</li> <li>7. 種ホタルの採集と産卵、ふ化、幼虫の放流と後継者の育成。</li> <li>8. 高南小学校5年生を中心に地域児童及び父兄で多様性ある河川を守る活動を行う。</li> </ol> <p>◆実施時期 2015/1/10～2015/12/31</p> <p>◆参加人数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・こぶしの会関係 375名</li> <li>・「豆ホタルの里」関係 220名+α</li> <li>・高南小学校授業参加 30名</li> </ul> <p style="text-align: right;">参加総人員:625名+α</p>		



水車の設置



道しるべ「竹灯笼」を沿道に設置



矢印表示板の設置。



高南小学校5年生の授業模様

#### ◆実施に伴う効果

他団体よりホタルの繁殖について、問い合わせがあり育成関係の談合を実施できた。

#### ◆苦勞した点

ホタル観賞会の際、

- ・来て下さる皆さんに、ホタルだけで満足して貰うにはどうしたらよいか
- ・来場者の安全対策をどうするか
- ・来場者のマナー対策をどうするか

上記 3 点について気を配ったが、皆さんの協力で事故なく終える事ができました。3 項については、チラシを来場者に配布し理解を得ることができた。

#### ◆今後の課題・発展の方向性

##### ①ホタルの活動

- ・高南小学校の児童と、過疎化が進んだ小さな集落の「豆ホタルの里」で、小生物の観察会を開催したい。
- ・水車小屋を増設したので、どの様に活用するか児童と知恵を出しあいながら良案を見つけない。

##### ②白木山登山道の整備

登り易い道にすることで登山者は増え、地域の活性化にも繋がるので整備をすすめたい。

##### ③ブッポウソウの巣箱の増設

河津川沿いの 8 自治会と協力し巣箱を 15 箱設置しているが、数年前より飛来が確認され子育て、巣立ちも確認しているので、巣箱の増設を検討している。



ブッポウソウの子育て - エサを待つヒナと運ぶ親 - 撮影者 伊東進也氏

#### ◆活動を終えての感想・意見等

貴財団の支援により、諸活動の活性化、環境整備が進みました。また、広島市街地からの白木山登山者が増しつつあるとともに、地区より市街地に居住している関係者の帰郷も増加し地域の活性化につながっています。

活動名	子どもたちに「生きる力」をつける「六区子ども塾」	団体名	大野第六区子どもの居場所づくり委員会
		地域	広島県廿日市市
		代表者	委員長 青木 健夫
		支援金額	20万円
活動概要	<p>・ 地域の子どもの健全な発達を保障するために、地域を中心に子どもの居場所を創出し、そこを拠点に体験活動を取り入れた「六区子ども塾」を運営している。2014年に開始、現在（2016年4月）3年目を迎えた。</p> <p>・ この活動を通して、子どもたちの「生きる力」を育てると共に地域活動に参加できる地域人に成長してくれることを願っている。</p> <p>◆実施時期 通年で25回 会場は地域の2集会所及び地域内にて</p> <p>◆参加人数 児童（塾所属児童43名）、支援スタッフ（コーディネーター）8名×25回実施で児童延べ724名、支援スタッフ延べ150名、地域講師30名</p> <p style="text-align: right;">参加総人員：904名</p>		



しめ縄づくりに挑戦。きれいにできました。



9月の敬老会でけん玉の技を披露。大人気でした。



囲碁将棋を習いました。う～ん、ええ手はないかのう。



曾根先生をお招きして「折り紙教室」  
廿日市市奥教育長様も飛び入りされました。

#### ◆実施に伴う効果

- ・ 少子化や地域での子育ての状況が変化中、「子どもの居場所」問題は大きな社会課題になりつつある。私たちのような取組みが他所でも始まるなど、大野地域では広がりを見せてきた。
- ・ 呉市「まちづくり委員会」の訪問、市民センターでの発表など、多くの共感を得る活動ができた。

#### ◆苦勞した点

- ・ 塾加入児が増加、会場確保や材料費調達に苦勞した。
- ・ 何と云っても、体験活動の中身づくりに苦勞する。今、何を体験させることが必要か、集団の中でどんな力を付けさせるかなど、スタッフで協議、十分に思考することが大切である。
- ・ 27年度はマツダ財団からの支援が大きかった。これからは会費を中心に賄っていかねばならないが、一層内容を精査していく必要がある。

#### ◆今後の課題・発展の方向性

- ・ 土日の活動を中心とした「塾」にしているが、さらに恒常的な活動（いつでも居場所がある）に拡大したいが会場やスタッフ等限界がある。今の方法を充実させるしかないようだ。
- ・ 一応定員を 45 名程度としているが、加入希望状況によっては具体的方法の再検討が必要であろう。

#### ◆活動を終えての感想・意見等

- ・ 今の子どもたちは、まさに漂っている。学校から帰っても居場所のない子、何をしてもすごしてよいか分からない子、SNSばかりしている子…課題は多い。
- ・ 2年間活動して子どもたちの変化に確信が持てるようになってきた。さらに頑張っていきたい。

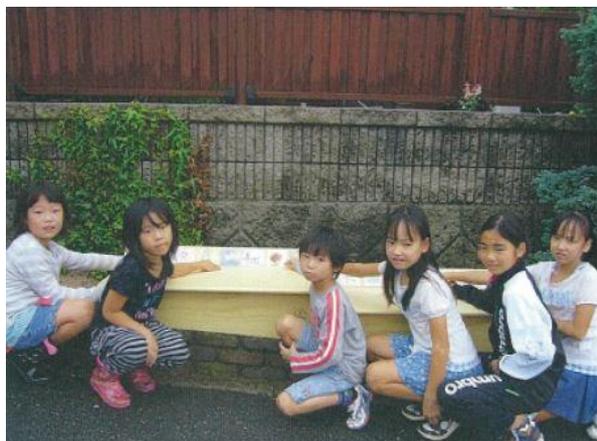
活動名  彩が丘団地‘元気ベンチ’プロジェクト	団体名	広島市佐伯区彩が丘連合町内会
	地域	広島県広島市
	代表者	連合町内会 会長 雨瀧 弘和
	支援金額	30万円
活動概要		
<p>団地内にベンチを設置し、ウォーキングやバス待ちに利用していただくことを目的として計画した。2014年7月からベンチを設置する場所の調査やベンチのデザイン、コスト、材質、設置作業等検討し、およそ1年かけて2015年8月1日に設置し、9月6日に完成報告会を開催した。</p> <p>◆実施時期 2014年7月～2015年8月まで 場所：広島工業大学、彩が丘公民館、彩が丘団地内</p> <p>◆参加人数 彩が丘連合町内会（10名） / 広島工業大学（20名） / 広島市佐伯区地域おこし推進課（3名） 広島市市民局（3名） / 彩が丘小学校児童（6名） / マルニ（5名） 彩が丘公民館（3名） / 彩が丘児童館（3名）</p> <p style="text-align: right;">参加総人員：53名</p>		



デザインした学生と子どもたちが記念撮影



デザインした学生からベンチの説明



ベンチ前にて



ベンチプロジェクト完成発表会；彩が丘公民館

◆実施に伴う効果

地域の要望に応えることができたことと、学生の皆さんと町内の良い点や改善すべき点を検討することができ、今後の魅力ある街づくりに大変参考になった。他の町内会からも問い合わせがありモデル地域の形を作ることができたと感じている。

◆苦労した点

予算では、学生のデザインが材質にこだわり高額になったため、2台の設置しかできなかった。設置する場所が、歩道は許可がもらえず宅地内の緑地帯に設置が制限され所有者の同意や付近の家の理解を得ることに大変苦労した。

◆今後の課題・発展の方向性

今後については高齢者の居場所づくりを計画している。空き家を利用してコミュニティ活動をしている団体もあるようだが、彩が丘の場合は空き家自体が無い。閉店したお店を再利用できないかを検討している。

◆活動を終えての感想・意見等

少子高齢化に伴い、高齢者のみの住居や災害時非難援助者の数が増えております。町内会を中心に支え合う街づくりを目指してさらに活動を推進してまいりますので今後ともどうかよろしく願いいたします。

活動名  東城応援隊(地域おこしボランティア活動)	団体名	まちなみ保存振興会(東城応援隊)
	地域	広島県庄原市
	代表者	会長 横山 和明
	支援金額	25万円
活動概要		
<p>「東城応援隊」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東城地域の伝統的なお祭りやイベントに高校生が観光ボランティアとして積極的に参加することで、地域行事を盛り上げ、地域の活性化に寄与する。</li> <li>・高校生が地域の大人と連携をとって地域活性化策を検討し、学生と一緒に地域貢献活動を行うことで、地域の将来を担う人材育成に繋げる。</li> </ul> <p>◆実施時期</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①東城まちなみ春まつり(4月, 庄原市東城町)</li> <li>②町内清掃活動(7月・10月, 庄原市東城町)</li> <li>③帝釈峡ウオークラリー(7月, 帝釈峡)</li> <li>④東城まちなみぶらり散歩ギャラリー(11月, 庄原市東城町)</li> <li>⑤お通り(大名行列)(11月, 庄原市東城町)</li> </ol> <p>◆参加人数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①49名</li> <li>②63名</li> <li>③5名</li> <li>④19名</li> <li>⑤22名</li> </ol> <p style="text-align: right;">参加総人員：158名</p>		



お祭り準備



タブレット活用



駅舎清掃



観光ガイド

#### ◆実施に伴う効果

- ①地元の中高生が地域活性化のために活動している姿が、東城町を訪れる観光客に好印象を与え、もてなしに感謝していただくことで、東城町や行事のイメージアップに繋がっている。
- ②地域の商店街から、中高生の参加で行事に活気が出ると評価していただいている。
- ③中高生の社会性・主体性・自律性等を育成する上で、地域と連携したボランティア活動等の体験活動は大変有効であった。
- ④中学生と高校生という異年齢集団が協働して活動することは、地域との繋がりを強め、それぞれの成長に繋がった。
- ⑤高校生が地域の魅力について学び、地域の大人と連携して地域の活性化について考えることができたことは、将来地域を担う人材育成に繋がる。

#### ◆苦勞した点

- ①東城町の商工会や学校関係をはじめ地域からの理解も得られており、概ね円滑に活動が展開できた。地域からも高い評価をいただいている。
- ②高校生と中学生が事前に学習会を実施することが難しいため、当日の打ち合わせの中でマネー指導や役割分担を行っている。そのため、十分な事前指導ができないので、実際に活動しながらスキルを高めている。今後は、ガイドの方法についての質の向上が課題となる。
- ③地元東城町では「東城応援隊」の存在は定着しているが、庄原市全体や市外に於いては十分に知られていない。東城町の魅力発信の一部として、この活動を発信することが必要である。

#### ◆今後の課題・発展の方向性

- ①タブレットを活用した効果的な観光案内のためのコンテンツの作成や、海外にも東城町のまちなみや帝釈峡の魅力を発信できるように、外国語（英語・台湾語）に対応したガイドマップを作成する計画を進める。
- ②観光ガイドの説明の質を高めるために、講師を招いた中高生対象の学習会を実施すると共に、各々が事前に学習をして参加することが望ましい。
- ③東城の観光資源のPRを促進する意味でも、中高生の活動を広報することは有効と考えるので、今回、マツダ財団の支援で実現したポスターをさらに活用し、ホームページ等他の広報の方法についても検討していきたい。

#### ◆活動を終えての感想・意見等

参加した生徒は活動を通して、地域への愛着や自己有用感を高めており、楽しんで参加をしています。「地域のために役立ちたい」という中高生の純粋な気持ちに、大人が応え支援することが、将来地域に貢献したいという思いに繋がり、生徒に展望と勇気を与えます。このような関係こそが、中山間地域の将来を考える上で大切であることを、活動を通して実感することができました。マツダ財団の支援をいただいたことで、これまで実現できなかったことがいくつも可能となり、活動の幅が広がり、参加者の意欲向上に繋がったことに感謝いたします。

地域に貢献しようとする若者の思いを、地元広島県を代表する企業によって支援いただくことは、生徒達の郷土愛や広島県への誇りを育てることに繋がったと感じています。

活動名 ぎおん遊び隊	団体名	祇園まちづくりプランプロジェクト
	地域	広島県広島市
	代表者	代表 安岡 志之夫
	支援金額	25万円
活動概要		
<p>小学生親子を対象に、農作業や武田山登山などの自然体験活動を通じて祇園のまちを見て知って好きになるための事業。</p> <p>農作業については、もち米(田植え～稲刈り、わらを使ったしめ縄づくり、餅つき)を育てると共に、季節の野菜(たまねぎ、大根、じゃがいも、人参など)を種まきから収穫まで体験してもらった。また、作った野菜を使って豚汁を作って食べたり、さつまいもの食べ方を参加者同士で紹介しあう場の提供を行った。</p> <p>地域を知る活動としては、安川緑道が昔はどのような場所であったか、説明をしながら歩いたり、武田山の史跡を学習しながら登山を実施した。</p> <p><b>◆実施時期</b> 2015/5/16～2016/1/16 (全14回) 場所:おやこ農園 (安佐南区青原片山)、武田山、祇園公民館</p> <p><b>◆参加人数</b> 小学生とその保護者 21組 58名 (通年の参加) 広島経済大学留学生 延べ20名 (半期で交代)</p> <p style="text-align: right;">参加総人員 : 78名</p>		



稲刈り



芋堀り



留学生とも活動



集合写真

#### ◆実施に伴う効果

親子揃って農作業や登山を行い、自分が住んでいる地域の良さや自然・食べ物の大切さを学んでもらうことができた。子どもだけでなく、保護者世代が初めて体験することも多かったため、大人のよい学習機会も提供することができた。また、スタッフも講座の準備～実施まで、定例会議を月1回行い、スムーズな運営方法の検討など、積極的に事業にかかわり、地域住民との交流という当初の目的を達成することができた。

#### ◆苦勞した点

- ・ 田んぼの稲の雀被害  
試行錯誤の末、田んぼ全面に網を張ることで解決した。収穫大幅UP。
- ・ 事業参加希望者の人数調整  
長年行っている事業であるが、参加者の募集方法を従来の先着順から、往復はがきで申し込みの抽選にした。参加希望者が定員の倍ほど申込みがあったが、スタッフの人数や畑の広さの都合上、定員を増員することができなかつたので、選に漏れた方から残念がる声が多く聞かれた。
- ・ 保護者の事業参加への意識  
子どもに体験活動をさせたいという思いと、その様子を写真に撮っておきたい思いが先行し、作業参加への関心が薄い保護者が見られた。親子での体験活動なので、共に動いてほしいという思いがあるが、意識改革をしてもらう誘導が難しかった。

#### ◆今後の課題・発展の方向性

- ・ 今後の課題  
①畑(農作物)への水の確保に苦慮している。現状は、近所の方のご協力により、水道水をもらって散水しているが、今後は自然水の取込みを考えて行く必要あり。  
②夏場の日よけ場所が無いこと及びトイレが無いこと  
上記課題①②は当面の検討課題となっており、場合によっては再度貴ご支援に応募させて頂く可能性がある。
- ・ 発展の方向性  
活動に参加している子供達とその保護者に、より主体性を持って行動(従事)して頂くように指導していきたい。(自分の家庭菜園と云う認識を持ってもらう。)

#### ◆活動を終えての感想・意見等

マツダ財団様の社会貢献活動に対する支援制度には敬服申し上げます。今回のご支援で、私達の‘ぎおん遊び隊’の活動が勢いづいたことに感謝します。

尚、地道に活動を続けていけば、資金的に困った時にご支援頂ける可能性の道が開けたことで希望が持てたように思います。

活動名 小中高生およびその保護者を対象としたミニミニ外国体験イベント	団体名	NPO 法人 ミニミニ外国 in 広島
	地域	広島県広島市
	代表者	理事長 宮井 ふみ子
	支援金額	30 万円
活動概要		
<p>小中高生およびその保護者を対象として英語力の底上げを目的に13回イベントを実施。そのうち以下5回のイベントに支援金を使用した。内訳はクッキングイベントを3回、小学5～6年生を対象としてオリエンテーリングに英語を絡めたイベントを実施。</p> <p>クッキングでは、親子での参加スタイルや外国人に肉じゃがの作り方を教えるといったおもてなしスタイル、そしてハロウィンの時期に合わせて親子でのお菓子作りを英語のレシピを必死に日本語に訳して考えたり、日本語のみのレシピを英語に訳して外国人に紹介するなど思考を凝らしながら英語を楽しんでいただいた。</p> <p>8月に実施した夏休み子供イベントでは、近くにいる外国人にヒントやツールを貰うためのキーワード“Can I get ○○○?”を何回も使ってオリエンテーリングスタイルのゲームを実施。炎天下の中、全力でチャレンジしている姿は本当誇らしかったです。</p> <p><b>◆実施時期</b></p> <p>①5月24日（保護者13名、未就学児4名、小学生11名、中学生1名）  ②6月28日（保護者、大人15名、未就学児3名、小学生4名、中学生2名）  ③8月 2日（小学生13名）  ④8月30日（保護者、大人15名、未就学児3名、小学生15名、中学生5名）  ⑤10月11日（保護者13名、未就学児6名、小学生6名、中学生3名、高校生2名）</p> <p><b>◆参加人数</b></p> <p>①29名 ②24名 ③13名 ④38名 ⑤30名</p> <p style="text-align: right;">参加総人員：134名</p>		



5/24 クッキングイベント



8/2 夏休み子供イベント



8/30 レストランイベント



10/11 クッキングハロウィン

#### ◆実施に伴う効果

子供だけでなく大人も外国人を見ると緊張したり、うつむいたり、喋らなくなったりと苦手意識を持っているが、理由は『英語が喋れないから』、『喋っても通じないから』、『何を言っているか、さっぱりわからないから』など。イベントに参加したお客さんは皆さん『英語って楽しい』、『意外に通じた』など話してみるとそうでもなかったという感想が多く、習うだけではなかなかその壁は乗り越えられないが、わずか2～3時間の体験でその呪縛から解放され最後は笑顔で帰っていただいた。

小学生だけのイベントでは子供たちから『辞書の引き方がわかった』とか『外国人は怖くなかった』、『本物の発音が聞けて参考になった』、『知らないお友達と難題を一緒に共同作業して楽しかった』などの意見があり、たくましくなって帰って行かれた。

#### ◆苦勞した点

英語の場合、人によってレベルが違うためどんな方でも楽しめる内容にするのか英語レベルを統一して参加者を募るのか非常に悩ましいところである。外部へのPRのタイミングやイベントのつながりをつくるのが非常に難しかった。

イベントは会場ありき（会場費が無料および低額）のところがあり、運営上問題になった部分があった。特に11月29日に予定していたクリスマスイベントは留学生会館が広島市の行事により使えなくなり、中止せざるを得なかった。

参加者の満足度を上げるために対象者を絞ると集客に苦勞した例もあった。

#### ◆今後の課題・発展の方向性

今年度はマツダ財団様の支援のおかげで非常に質が高く、回数も多くイベントを開催することができた。現段階においてイベントでは助成金はいただいているが運営上お客様から参加費を徴収する必要がある。今後はできるだけ低額で助成金に頼らない活動ができるような仕組みを考えていかなければならないと考えている。

また、他のNPOや任意団体とのコラボレーション企画を積極的に取り入れて、より多くの方々に我々の活動を認知していただく必要があると考えている。来年度は今まで通りのイベントを企画する事に加え、企業や公的な施設からの依頼を受けたイベントを積極的に実施していく予定。

そのためにも人材が非常に重要で、従来のイベントスタッフに加えて学生ボランティアにも声を掛けていく。

#### ◆活動を終えての感想・意見等

子供たちにはこれからまだまだ可能性が無限大にあり、その手伝いをしていくのがミニミニ外国in広島の使命と考えています。将来の広島、日本を支えるのは子供たちです。海外からの観光客やビジネスマンが広島に来られますが、広島の良さ、日本の良さをまだまだ伝えきれていない部分がたくさんあります。

アジア諸国で日本人の英語力は低く今後、日本という素晴らしい国を守るためには英語は必須です。広島発！日本を守るグローバル（グローバルとローカルを合わせた言葉）な人材をつくるために継続的な支援をお願いいたします。

活動名	ひろしま子ども議会 2015 ～ひろしまの未来を考えよう～	団体名	一般社団法人 広島青年会議所 子供の自立育成委員会
		地域	広島県広島市
		代表者	委員長 庄子 佳宏
		支援金額	25万円

**活動概要**

「10年後の明るく豊かなひろしまのために」をテーマに子供たち自らがひろしまの未来について考え、広島市に提言を行う事業です。「観光」、「文化」、「環境」、「教育」、「まちづくり」のキーワード別に5つのグループを組織し、3回の委員会を行い、それぞれ今のひろしまの魅力や問題点を協議し、現地調査やアンケートを行い、自分たちの夢やまちの未来を考え、提言書にまとめた。広島市議会議場にて提言を行い、それに対し、市長や各局局長より答弁をいただいた。また、子供たちの今後の行動の目標を定めた宣言文を作成し、発表を行った。その後、広島駅前南口広場にて、公開報告会を行い、自分たちで作った提言書を発表し、一般市民の方々にも市政や議会について考える契機としていただいた。

**◆実施時期**

①第1回委員会 6/6 13:00～18:00、②第2回委員会6/20 13:00～18:00  
 ③第3回委員会 6/27 13:00～18:00、④ひろしまキッズ議会予行演習・キッズ議員認定式・本会議 7/11 10:30～17:00、⑤ひろしまキッズ議会公開報告会 8/22 13:00～15:00

参加総人員：4,167名



広島市議会議場にて、ひろしまの現状と未来に対する考えを発表



松井市長や担当局長からご答弁をいただく



提言内容と思いを広島駅南口地下広場で一般市民に向けて発表



一般市民の前で広島市長に採択された宣言文を発表

#### ◆実施に伴う効果

この事業での経験を糧に、子供たちには将来に対する責任意識を強く持ち続けて、広島のみちを支えるヒーローになってもらいたいと願っている。また子供たちのこうした取り組みを受けて、一般市民の皆様にもより一層みちへの関心を強める契機としていただけたらと考えている。

#### ◆苦勞した点

広島市教育委員会や広島市小学校校長会、また各学校を訪問して事業概要を説明し、市内の小学校6学年の児童に募集要項を配布。直接参加奨励を行った学校は効果を得られたが、広島市教育委員会を通しての配布は児童の手に届くまでに時間を要し、期待した効果は得られなかった。

#### ◆今後の課題・発展の方向性

- ①参加者募集では校長会で事業説明を行い、広島市教育委員会を通して募集要項を配布した。配布時期は学校毎に差があるため、できるだけ学校に赴き直接働きかけることがお勧めである。
- ②広島市議会、広島市教育委員会、広島市各部署とも対応に差がある為、相手側の窓口を1つにして意思疎通や調整をされることがお勧めである。
- ③マスコミ対応において、広島青年会議所、行政が各自で対応した為、受付対応がスムーズに行えず、取材陣に同じことを2回確認したり、対応した担当者によってアナウンスが相違するという事態が発生した。事前に行政側とマスコミ対応について意思統一を図ることがお勧めである。
- ④新聞やテレビのニュースなど、メディアに取り上げていただいたことで事業に参加していない多くの人からも反響があった。一般市民への伝播の方法として非常に効果的だと考えられるので、各種メディアに積極的に働きかけることがお勧めである。

#### ◆活動を終えての感想・意見等

本事業に参加した子供たちは本会議での提言に向けて3回の委員会協議を重ね、広島の問題点の解決策を提言書にまとめました。市の職員の方やJ Cメンバーが行ったレクチャーを基に子供たちは積極的に委員会協議を行いました。保護者からは「家でも色々な事を提案するようになった」という言葉をいただきましたが、これは本事業を経験した子供たちが、身近なまちの問題点に興味を持ち、問題の解決に向けて考える思考を持ったからだと考えます。また、子供たちは10年後の広島がより良いまちになるために、自ら考え、自分たちができる事を行動指針として宣言文にまとめました。参加者アンケートでは「10年後の広島の事を自分の事として考えられた」「市長になりたい」「JCIの人になりたい」「広島のみちをもっと良くするために今後も考えたい」と多くの前向きな感想が見られたことから、子供たち自らが社会の未来を作り上げていく責任意識を醸成する一助となったと考えます。

第2回委員会にて行った街頭アンケートでは、2人1組でお互いを励まし合い、多くの人々の声を聞くことができ、「たくさんアンケートを取れた」と笑顔で話してくれました。そして、提言書の作成ではお互いの意見を出し合い、他者の意見を認めながら提言をまとめました。参加者アンケートでは「たくさん友達ができた」「みんなで1つの事ができた」と多くの子供たちが書いており、お互いに協力し支え合って目的を達成するという喜びを感じてくれました。

事業実施後、市内の小学校にダイジェスト映像と報告資料を入れたDVDを配布しました。その資料を基に授業を行っていただき、多くの児童に広島のみちの将来について考えてもらいました。また、各種メディアに取り上げていただいたことで、一般市民の皆様にも事業を周知することができ、公開報告会ではパネルや映像の展示にて事業の目的や成果を広く発信し、多くの人がまちについて考える契機となりました。

<b>活動名</b> 夏休み子ども保養キャンプ「ひろしま7日間冒険の旅」	<b>団体名</b> 広島県シェアリングネイチャー協会 <b>地域</b> 広島県廿日市市 <b>代表者</b> 理事長 住吉 和子 <b>支援金額</b> 25万円	<b>広島県シェアリングネイチャー協会</b> 広島県廿日市市 理事長 住吉 和子 25万円						
<b>活動概要</b> <p>3. 11の被災地の子どもたちが、子どもだけで広島へ旅にでかけ、のんびりたっぷりと広島          の自然や人々とふれあうプログラム。廃校となった木造校舎で大家族として共同生活をし、主          体性を育む。また豊かな自然・農村風景や人々に囲まれた環境のなかで、自然体験を通してセ          ンスオブワンダーや生きる力を養う。</p> <p>◆実施時期</p> <p>7/20（月・祝）～26（日）</p> <p>ねらい</p> <p>7/20（月・祝）「一緒に過ごす被災地児童と広島県児童が仲良くなる日」          7/21（火）「地域を探検し、自然や人とふれあおう」          7/22（水）「地域の小学校で交流しよう・自然体験で山の自然を感じよう」          7/23（木）「地域の小学校で交流しよう・自然体験で川の自然を感じよう」          7/24（金）「原爆や震災後に復興に力を尽くした人々の活動を学び、平和のために          自分に出来ることを考えよう・三次市児童といっしょに」          7/25（土）「一緒に過ごした日々をふりかえり、思い出作りをしよう」          7/26（日）「出会いとわかれを体験しよう」</p> <p>◆参加人数</p> <table border="0"> <tr> <td>①被災地参加児童</td> <td>49名</td> </tr> <tr> <td>②広島県内児童（参加児童・川西小学校児童）</td> <td>155名</td> </tr> <tr> <td>③スタッフ・ボランティア</td> <td>111名</td> </tr> </table> <p style="text-align: right;">参加総人員:315名</p>			①被災地参加児童	49名	②広島県内児童（参加児童・川西小学校児童）	155名	③スタッフ・ボランティア	111名
①被災地参加児童	49名							
②広島県内児童（参加児童・川西小学校児童）	155名							
③スタッフ・ボランティア	111名							



川西小学校交流会



歓迎のアーチでお出迎え



平和学習



地域探検(竹廣さん宅)

#### ◆実施に伴う効果

この活動によって広島県内の児童と東日本被災地児童が交流することが出来、広島の子どもたちが被災地の今を学ぶことが出来た。「放射能汚染されていないか知りたいから、今日使った牛乳とか野菜の産地を教えて」「福島産の野菜でも、ちゃんと残留検査しているんだから、食べられるのに、風評被害を広げるニュースばかりで困る。」「友だちが体育館の屋根が落ちてきた下敷きになった。自分も目の前にいたが下敷きにならず助かった。友だちも救出されてよかった。」「4月から行く予定だった小学校が津波にあって、流れてしまったのでショックだった」「まだ小さかったから覚えていない」など、被災地児童の会話に広島の子どもたちは接し、3・11を身近に感じる事が出来た。

この事業を通して、当団体は多くの団体と交流することが出来た。「被災地の為なら」と協力いただける団体がたくさんあり、人の温かさを感じる事ができた。そして、地域の人々や多くの団体から「なにか被災地のために出来ることをしたいと思っていた」という声と共に、たくさんの協力を得ることができた。事業終了後には「また協力させてください」と感謝していただき、地元の小学校からも、「また被災地との交流活動を行ってください」との声をいただいている。参加者から「来年も」との声も上がっている。

#### ◆苦勞した点

- ・予算において、参加費収入を抑えるために寄付金や寄付物品・寄付食材集めに苦勞した。
- ・長期泊キャンプによる保養や充実した体験教育に狙いをおいた事業であったが、体験教育やキャンプ生活支援が楽しく効果的に行える人材ネットワークがまだまだ出来ていない。予算も少ない中で、少人数での対応となったため、各スタッフにとって体力的な負担が大きかった。
- ・福島、被災地周辺との関わりがこれまで薄かったため、被災地からの参加者募集に苦勞した。

#### ◆今後の課題・発展の方向性

- ・来年以降継続していくための資金作りや人材集めが課題となった。
- ・資金づくりにおいては、寄付集めと助成団体の情報集めを今後行っていく。
- ・人材集めにおいては、体験活動関連団体の連携を今後より強めていくことで継続を図りたい。
- ・被災地と広島との交流による体験活動を今後も継続していける方向を目指す。

#### ◆活動を終えての感想・意見等

東日本大震災の被災地では今もなお、復興活動が続いており、また放射能汚染も解決の目途がたっていない。しかし距離的にも遠く、報道も少なくなったため、広島に住んでいる私たちは3・11を忘れかけている。一方で今回の事業を通して「被災地の為に自分に出来ることを何かしたい」という思いでいる人々が今もなお沢山いらっしゃることを知った。被災地の参加者と共に人々の心にふれることが出来、感動した。70年前の8・6当時も、同じように東北から遠い「ヒロシマ」の出来事は捉えられていたのではないかと。年月が経つ中で、ヒロシマの記憶は失われかけている。ところが今もなお、「ヒロシマ」のために出来ることをしたい・反核運動を支援したいという思いは全国から広島・長崎につながっている。

今回の活動を通し、平和への想いで「つながる」ことが、明日への希望となり生きる力になるかを感じることが出来た。そして、ヒロシマの復興を助けてくださった人々へのご恩を忘れず、今後も広島が出来ることを続けたいと感じた。広島豊かな自然体験と平和学習のできる資源を全国の子どもたち、特に被災地の子どもたちにつなげる活動を継続していける方向を探りたい。

活動名		団体名	一般社団法人 ドリームマップ普及協会 広島支部						
次世代リーダー育成「将来の夢を描くドリームマップ」を作ろう！ in HIROSHIMA		地域	広島県広島市						
		代表者	広島支部代表 田岡 美江						
		支援金額	20 万円						
活動概要	<p>1. 参加した幼稚園～小学6年生全員で自己肯定感をアップさせるワークを行い、将来なりたい自分の姿を台紙の上に写真や文字で表すドリームマップを作成し参加者と保護者の前で発表した。自己肯定感アップワークの内容は、自分の好きな事・得意な事や友達のいいところを発見し、言葉の言い換えやポジティブな言葉の体験し将来の夢や職業の下書きをした。自分の夢を台紙の上に写真や切り抜きを貼りビジュアル化してドリームマップを作成し、参加者全員の前で発表した。</p> <p>2. ドリームマップ作成中に、保護者向けの子育て座談会を開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「自己肯定感を育む家庭の在り方」夢を育む声掛けの方法について考えた。</li> </ul> <p>◆実施時期 8月2日 広島市まちづくり交流プラザ</p> <p>◆参加人数</p> <table border="0"> <tr> <td>幼稚園/ 小学1年～6年</td> <td>88名</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>72名</td> </tr> <tr> <td>運営スタッフ</td> <td>25名</td> </tr> </table> <p style="text-align: right;">参加総人員:185名</p>			幼稚園/ 小学1年～6年	88名	保護者	72名	運営スタッフ	25名
幼稚園/ 小学1年～6年	88名								
保護者	72名								
運営スタッフ	25名								



ドリームマップ作成



自分を知るワーク



発表を聞く子どもと保護者



夢の発表

#### ◆実施に伴う効果

- ・ドリームマップ授業を取り入れていない小学校より開催依頼があった。
- ・学校で開催されている保護者主催の PTC 活動で親子で将来の夢を考える講座を行ってほしいと依頼があった。
- ・参加した子ども達、保護者より他の地域でも開催して欲しいと言う意見が多くあった。

#### ◆苦労した点

- ・予算  
講師料や交通費に費用がかかったので、次回からは広島在住の講師を育成し経費削減を行いたい。
- ・外部への PR  
PR については、教育委員会を通じてチラシを配布して頂いた為、多くの参加者を集める事ができた
- ・参加者
  - ①参加人数が多く、誘導やこどもの安全に対する人員配置に苦労した。
  - ②サポートするスタッフを今後は増やさないと対応が難しいと感じた、子どもへの声掛けなどコーチングの技術を勉強したスタッフが対応することが望ましく、スタッフ教育も必要と感じた。
  - ③会場の定員をオーバーしてしまい、今後は会場の変更が必要になってくる。
  - ③広島市以外の方からのお問合せも多く、年齢によっては保護者の引率が必要な為参加をお断りする場合もあり心苦しかった。

#### ◆今後の課題・発展の方向性

- ・課題
  - ①今回のイベントを広島市以外の場所でも開催して欲しいとの要望が多く、経費を抑えて開催できる仕組み作りが必要。
  - ②多くの学校でドリームマップ授業を開催する為には人材育成が必要と痛感した。
- ・発展の方向性
  - ①次年度は東広島市・呉市・廿日市市・福山市・広島市の 5 拠点での開催し 1 人でも多くの子どもが将来の夢を描ける場を提供する。
  - ②親向けの講座も同時に開催し、子どもの夢を応援する保護者を増やす。
  - ③企業やボランティア団体がこの活動を応援する事例を多く作ることにより、広島県の全小学校でドリームマップ授業ができ、企業が学校を応援する仕組みを作りたい。

#### ◆活動を終えての感想・意見等

参加された子どもや保護者より、参加して良かった！ありがとう！の声を多く頂きました。今後の小学校での開催に向けて大きな PR になりました。

<b>活動名</b>	<b>団体名</b>	音楽療法グループ ピリカ
障がい児・者を対象とした、音楽療法グループ “ピリカ”	<b>地域</b>	広島県広島市
	<b>代表者</b>	石井 明子
	<b>支援金額</b>	20 万円
<b>活動概要</b>		
<p>様々な障がいを抱える子ども達に、より良い療育を提供するために、2000年に自主グループを立ち上げる。「音楽療法とは、音楽の持つ生理的・心理的・社会的働きを、心身の障害の回復、機能の維持改善、生活の質の向上に向けて、意図的、計画的に活用して行われる治療的、教育的技法である」の定義に基づき、対象者一人一人に応じた療育を行うことを目的としている。</p>		
<p>単に歌を歌ったり音楽を聴いたりといったこととは違い、障がい特性、知的レベル（発達年齢）、成長段階を細やかに分析し、利用者各々の計画書を作成した上で、個々のニーズに合わせた音楽療法を提供し、発達の支援を行っている。</p>		
◆実施時期		
毎週火・土曜日の10時～18時迄		
場所：児童デイサービスや病院の一室		
◆参加人数		
小学生以下3名、小学生16名、小学生以上11名		
月2回（年24回）療育をおこなっている。		
参加総人員：720名		



個人セッションの様子①



個人セッションの様子②



小学生のグループでのセッションの様子



余暇を楽しむ若者達

#### ◆実施に伴う効果

各々の障がい特性や発達年齢に合わせた療育目標を掲げ、スモールステップで“出来ること”を増やしていくように働きかけていったことで、子ども達は各々成長していくことが出来たと思われる。また、楽器をたくさん購入したことで、活動のバリエーションが広がり、より良い音楽療法の効果を得られたと感じている。

#### ◆苦勞した点

当グループは、児童・成人を対象とした音楽療法グループを立ち上げ、15年以上が経過した。幅広い年齢層に対応できる多様な楽器を購入することが1つの課題だったが、助成金のおかげで予算面の確保が出来た。

現在スタッフ3名、頻度週2回という限られた環境の中で活動していることに加え、長期継続利用者が多いという現状から、活動の規模を広げていくには限界があるため、外部へのPRは、主に口コミと場所を提供して頂いている事業所のホームページに留めている。

#### ◆今後の課題・発展の方向性

今後の課題

- ・会員会費で経費とスタッフ3名分の給与を賄っているため、出費項目（楽器・遊具・教具費・研鑽費等）によっては、スタッフが自分持ちで工面しているといった現状がある。
- ・音楽療法士を目指す者が少なく、後継者の育成が難しい。

発展の方向性

- ・高額な楽器や新奇性のある楽器の複数購入を通して、活動やアプローチのバリエーションを広げ、音楽療法の効果をより高めていく。
- ・障がいのある子どもを育てるにあたり、保護者のストレスが高い場合が多いため、保護者支援に一層力を入れていく。
- ・学会や勉強会の参加を継続し、スタッフの自己啓発と音楽療法士のネットワークを広げていく。

#### ◆活動を終えての感想・意見等

頂いた支援金は主に会場費、教具・楽器の購入に使用させて頂きました。子ども達の療育や成人の余暇活動の発展に努力し、幅広い年齢層の利用者たちにとって、より充実した「居場所」「時間」を提供することが出来ました。また、助成金を頂いたことによりマツダ財団の信用も加わり、より充実した活動を行うことが出来ました。

活動はまだ終わっておらず、来年度へと受け継がれます。引き続き自己研鑽し、利用者各々のニーズに沿った支援が行えるよう努力していきたいと思えます。

この度は、ありがとうございました。

<b>活動名</b>  湯来こども探検隊	<b>団体名</b>	湯来のまち再生プロジェクト協議会
	<b>地域</b>	広島県広島市
	<b>代表者</b>	会長 武田 真哉
	<b>支援金額</b>	20万円
<b>活動概要</b>		
<p>子どもたちが「探検隊」として、地域の自然や人に対して主体的に接触し、自分たちの視点で「楽しさ」や「感動」を深め、さらには地域に対して誇りをもつようになることを目的とする。対象は湯来町に在住する小学生。探検地は主に湯来町とする。探検隊として1人一台カメラを持ち、季節ごとに設定した探検スポットへ赴く。子どもたちが興味をもった自然や人に対して「調査」・「取材」を実施し、最後には写真展を開いて、湯来町以外の人たちに魅力を伝える発信者となる。すべての活動に広島工業大学地球環境学部の生き物を学ぶ大学生たちが同行し、小学生の思いや経験が形になるようにマンツーマン体制でサポートする。</p> <p><b>◆実施時期</b>  夏の教室：8/22 10時～16時 「田んぼ・川の生物でおはなしをつくろう」  秋の教室：10/24 10時～16時 「雑木林でファッションショー」  写真展：10/30</p> <p><b>◆参加人数</b>  夏の教室：スタッフ2名、小学生9名、大学生11名  秋の教室：スタッフ2名、小学生7名、大学生11名</p> <p style="text-align: right;">参加総人員 42名</p>		



夏プログラム・川で生き物を探す



夏プログラム・田んぼで生き物を探す



秋プログラム・制作した衣装を着て



写真展・広島工業大学学園祭にて

## ◆実施に伴う効果

「今年はやらないの？」と地域の子どもたちが楽しみにしてくれるようになった。今回使用したカメラの影響が強く、クリスマスプレゼントにゲームよりもカメラをほしがることが多かったと報告があった。参加した大学生からは「小学生たちの地域に対する知識が深くもっと知りたいから来年は合宿にしてほしい」と要望があった。これまでの体験活動では、当日以外の場で体験について語ることはほとんどなかったが、徐々に小学生や大学生の中で「我が事」として活動をとらえてくれるようになった。こうした体験活動の多くは、将来を担う子供たちに期待をかけた大人たちが主催することが多く、当事者が活動の意図を理解しているかは不明であった。しかし、今後この湯来子ども探検隊は、学生や子どもたちが作っていく活動に成長する兆しが見えた。彼らがつくる活動がどのようになるか現段階では未知であるため、来年度は自主運営という形で進める決意をした。

## ◆苦労した点

【写真撮影】スマートフォン世代の小学生はデジタルカメラを使うことに慣れていないため、ぶれずにきちんと被写体をとらえることが大変難しかった。デジタルカメラの再生機能を利用して、撮った写真がうまく撮れているかを確認することで徐々に写真の出来栄がよくなった。

【上級生の集中力を維持させること】対象が湯来町在住の小学生と限定としているため、活動地となる場所は普段から慣れている。小学生は、生物が多く見つかるスポットを知っているなど土地勘がある一方、その場に対する緊張感がない。そのため、活動中に危ない行動をすることや、その地に不慣れな大学生の言うことを聞かないといったことが起こり、活動に集中力を持たせることが大変難しかった。小学生一人につき、一人大学生を付けるというマンツーマン方式をとっているが、夏のパートナーはそのまま秋も継続させるなどの工夫をした。そのため、大学生との信頼関係が築かれ、秋のプログラムではどの小学生も集中力をもって活動に取り組めた。

【その他】地域連携や予算については問題なく進めることができ、活動地を快く提供いただけた。

## ◆今後の課題・発展の方向性

【中学生も対象とするか】これまでの2年間では、対象は「湯来町に住む小学生」に限定していた。その理由は、湯来町にはたくさんの自然体験プログラムがあるが、参加者は外部からが多いからだ。もっとも地域の自然や状況について、いろんな側面から学んでほしい地元の参加は少ないのが現状である。「湯来町の小学生限定」とすることで参加の促進を強調したかった。結果として、参加した保護者が自然とロコミで呼びかけをしてくれるようになったため、来年度以降も参加する湯来町の小学生は増えそうである。徐々に活動が浸透していることを実感しているが、小学生の児童数は年々減少し、湯来町内にある小学校は2校とも複式学級となっている。小学生だけを対象としていては、まとまった人数の確保や、活動の持続性の確保ができなくなる可能性がある。

そこで、中学生も参加対象者として検討していきたいが、小学生と中学生を同じプログラムで活動させることはレベルの差が生じてまとめるのが難しいという懸念がある。小学生からは中学生になっても参加していいかと声をもらっているため、その期待に応えたいが、どのように進めていくかは大変大きな課題である。

## ◆活動を終えての感想・意見等

将来の中山間地域をはじめとする、日本の過疎地を最前線で引っ張っていこう地元の小学生たちに、「問題が山積み」というイメージを故郷に持ってほしくないという思いから活動を始めた。この活動を通じて「故郷は自信を持って自慢をしよう」や、「困ったときは様々な人たちの知識や力を借りて乗り越えていける」というメッセージを年齢の近い大学生から小学生へ伝えてもらったことは大きな収穫であった。

最後に開催した「写真展」では、小学生たちには、自由参加で来場してもらった。中には一人でバスに乗って大学まで訪れた小学生もおり、朝から日暮れまで大学生と一緒に写真展と学園祭を満喫していた。プログラムの先に、こうした「持続的な関係」を築けたことは、両者にとって非常に刺激的なことだったと思う。こうしたことから、今後はプログラムを実施することが目的とならない活動ができるように努力していきたい。

活動名		団体名	クローバーの会(発達障がい児を持つ親の会)
体験しながら学ぶ、ソーシャル・スキル・トレーニング(SST)活動		地域	広島県広島市
		代表者	代表 村主 裕子
		支援金額	25万円
活動概要	<p>1. 子どもたちが豊かな人生を送れるように、社会的コミュニケーションの基本的スキルの体験学習を通じて、対人関係スキルの向上、問題解決力の醸造を図る。</p> <p>2. 仲間と一緒に活動することで、自分と他者との違いを肯定的に認める自他理解の深化を促す。また自他の関係性を肯定的に意味づける力を育てる。</p> <p>3. 活動を通して得られた成果を検証し、子どもたちへの生活支援をより効果的に行う方法についてまとめ、情報を発信する。発達障がいに対する適切な支援の拡大に貢献する。</p> <p>◆実施時期          時期：2015年2月～2016年2月          場所：広島市中区社会福祉センター、広島市男女共同参画センターゆいぽーと、子どもコミュニティネットひろしま事務所</p> <p>◆参加人数          小学生20名、中学生8名、講師・スタッフ8名（延べ22名）</p> <p style="text-align: right;">参加総人員:50名</p>		



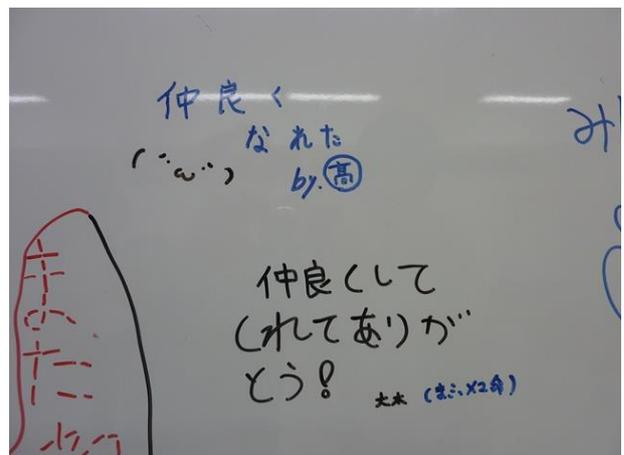
低学年グループ



高学年グループ



中高生グループ



感想

#### ◆実施に伴う効果

参加した子どもの対人スキルに対する自己評価をもとに、活動成果の検証を行った。

- ・中高校生グループでは「頼むスキル」「会話のスキル」について有意義な変化が認められた。
- ・小学校高学年グループについては、「自分と考えが違って受け入れることができる」「会話が続けられる」「話や遊びに入ることができる」について、有意義な変化が認められた。
- ・小学校低学年・未就学児グループでは、ルールを守って仲良く遊ぶことのできる子どもが増えた。

#### ◆苦勞した点

ボランティアスタッフの確保に苦勞した。ボランティアスタッフに保護者も加わることで人員を確保した。講師代を低く抑えることで予算内で運営するよう努力をした。

#### ◆今後の課題・発展の方向性

本活動は本年度初めて実施したもので、実施時期や活動内容など検討する余地がある。参加した子どもたちは今回の体験や自信の努力が成果となって表れたことで継続的な活動を望んでくれている。そのためには活動場所や運営スタッフ、活動資金の確保など、人・物両面での準備が課題である。

当初の目的にあげていた「活動を通して得られた成果を検証し、子どもたちへの生活支援をより効果的に行う方法についてまとめ、情報を発信する。発達障がいに対する適切な支援の拡大に貢献する」については、次年度への継続課題となった。

2016年度はクローバーの会として、発達障がい児を持つ親向けの学習会を開催する予定。

今年度の SST 活動を通じて得られた成果を元に、親子間のコミュニケーションを円滑にはかる方法を学ぶ機会にしたい。将来的には学校関係者にも情報を発信し、発達障がい児への理解を広めたい。

#### ◆活動を終えての感想・意見等

マツダ財団から助成金を頂いたことで、会としては長年の念願であった SST を開講することができました。運営に携わった保護者としても今後につながる体験やノウハウを得ることができ、会全体にとって非常に有意義な活動となりました。ありがとうございました。

活動名 自然体験・科学研究支援事業	団体名	広島干潟生物研究会
	地域	広島県広島市
	代表者	会長 川端 信之
	支援金額	31 万円
活動概要		
<p>広島に残された貴重な自然に目を向け、そこに親しむことを第一歩とし、そこから課題をみつけ、探的に考えて解決しようとする力、発表したり働きかけたりといった行動に移せる力を育成しようとしている。また自然の不思議さや美しさを画像に切り取って公開し、それらを通じて市民への啓発活動へとつなげようとしている。</p> <p>活動の柱は、a 干潟観察会、b 科学研究発表会、c 写真展であり、それに伴う準備、指導、関連行事も行い、派遣依頼にも応じてきた。今年度は、a では 2 泊 3 日の日程で有明海一周の旅を加えた。b では 10 テーマの口頭発表・ポスター発表を行った。c では干潟の生きもの 60 点のほかに科学写真 99 点を加えて展示した。</p> <p>活動は、①干潟観察会 5 回、②科学研究相談事業へ講師派遣、③スタッフ研修会、④科学研究指導 23 回、⑤科学研究発表会 口頭発表 10 件・ポスター発表 10 件⑥写真展「干潟の生きものたち」「水・光・瞬間の不思議」 ⑦広島大学理学部シンポジウムへ中学生を派遣</p> <p>◆実施時期 2015 年 4 月～2015 年 12 月</p> <p>◆参加人数 ①278 名、②104 件、③約 200 名、④約 100 名、⑤110 名、⑥不明、⑦4 名 参加総人員:800 名以上</p>		



干潟観察会(白島九軒町)



有明海一周オープンキャンブ(化石採取、干潟観察、火山学習など)



第 3 回 ジュニア科学研究発表会(まちづくり市民交流プラザ)



写真展(まちづくり市民交流プラザ)

#### ◆実施に伴う効果

観察会では、参加者から「こんな身近なところにこんな豊かな自然や生き物が見られることに感動した。」という感想を毎回いただいております。啓発的な活動となっている。ゴミ拾いも併せて行ったところ、参加者に好意的に協力いただいた。研究発表会では、「子どもたちが積極的に自然と触れ合い、探究活動に取り組んでいるのが頼もしい」といった感想が多く寄せられた。広島大学での研究発表は中学生で唯一であり、参加した高校や参観の大学生、大学スタッフにインパクトを与えた。スタッフ研修会では、自然観察の方法、解説の仕方、記録の取り方など実践的な内容を学びあい、実際の観察会やキャンプ等に役立った。研究指導講座では、相談に来た児童・生徒や保護者に感謝された。また、講師として参加した者にとっても得るものが多かった。

#### ◆苦勞した点

- ・ 予算面では、活動の規模が大きくなるにつれ予想以上に消耗品の支出額が大きくなり、業者による印刷費の見積もりが想定をはるかに超えたこともあり冊子の出版は今年度は断念した。
- ・ 外部の PR については、年度当初は観察会のたびにチラシをつくり郵送していたが、郵送料と手間がかかり、また学校に届いても児童・生徒・保護者にまでは情報がほとんど伝わらないことがわかった。その後は中国新聞、西広島タイムス、自前HPに頼っている。
- ・ 地域の理解については、活動自体が地味であり、娯楽的な要素がほとんどなく、ともすれば説教がましいと感じる向きもあると思われる。一方で子どもも親も受験が眼中に大きく、やはり保護者、学校、地域社会への啓発がまだまだであると感じている。

#### ◆今後の課題・発展の方向性

地道にこれまでの活動を進めていく上では、問題はあまりない。ただし、発展性を考えたとき、次のような課題が考えられる。広島市内だけをとっても、自然保護団体、環境問題を考える団体など多数見受けられるが、それぞれが独自に活動している。これらがまとまって大きな組織となり、あるいは上部組織を形成するなどして統一した方向性が打ち出せれば大きなインパクトとなり、社会への啓発が容易になると考えられる。労を惜しまない人、専門性をもつ人はあちこちにたくさんいるのに、ベクトルが分散し、財源が少なく、広報力がないのが現状であり、リーダー、財界、マスコミ等のいっそうの支援が望まれる。願わくば、公の団体（たとえばいまだに県内にはない自然史博物館など）が率先し、専任スタッフがリードしてくれたらよいのだが。

#### ◆活動を終えての感想・意見等

活動を進めるうえで、こまごまとした経費がかさむため、マツダ財団の補助はありがたかった。またネームバリューも大きく、市教委の後援とともにマツダ財団の支援を得ていることの信頼性は絶大であった。

今後については、スタッフはシニア、ジュニアともに意欲的であり、一般参加者も前向きで真剣である。したがって活動自体も充実しており、手ごたえは十分である。しかし逆に考えると、前向きな親子、興味をもっている親子しか参加していないのではないかと、またすそ野を広げることになっていないのではないかとという見方もできる。欧米のように、年齢に関係なく自然の中でゆったりと過ごす文化が日本にはなく、野外活動といえばバーベキュー、海辺といえばアサリ堀り、海水浴やサーフィンしか思い当たらない。また小学校高学年になるかならないかのうちから学習塾に身を任せる家庭がけっこう多い。こういった現状を考えると、よほどの覚悟と行動力、財力、メンバーに恵まれない限り、自然を教師として捉えるという意識を親にも子にも醸成し、そこから、自然を身をもって体験し、自然のしくみや成り立ちを見つけ、科学的に思考し伝達する力を身につけた子どもたちを育成することは、きわめて困難であることを実感している。

ジュニアの活動には目を見張るものがあつた。12月の発表会という目標があつたため、科学研究に力を注ぎ、完成度の高いポスターと、わかりやすい口頭発表は観客をうならせた。かれらはすでに次の発表会を意識しており、司会進行、裏方などの役割を分担し、サイエンスショーの実施を提案してきた。これには6名の女子中学生（この4月からは高校生）がすでに準備に取り掛かっている。適切な場を与えれば意欲的に行動できる若い力の存在に勇気づけられ、これに期待したい。

活動名 中学生・高校生の能楽塾	団体名	たつじんくらぶ
	地域	広島県広島市
	代表者	代表 吉原 通庸
	支援金額	35 万円
活動概要		
<p>小学校より能を続けている中高生グループの継続が、伝統芸能の継承、将来を担う国際人育成に繋がるとして、この事業を行なった。今回は前年度よりも4人の新メンバーが加わった。謡と仕舞を稽古し、発表までの段階で、発表会に向けての彼らの役割も話し合う機会を持ち、発表会では、舞台上での「体験コーナー」を彼らが行うことになった。発表会はアステールプラザ能舞台で、「伝統芸能でピース・ひろしま楽！」と題し、前半が能、日本舞踊、長唄三味線の子ども達、大人の稽古成果発表で、後半が講師（長唄、能楽）の芸の鑑賞になる。演者は国際的にも活躍している人などで、その芸を鑑賞できる機会もなかなかないが、子ども達を通して観客となる人たちには伝統芸能に触れる機会となる。（高校生までは無料）そのプログラムの中での「体験コーナー」であり、メンバーは広報役も務めており、目に見えないが、能を軸とする話し合いを通してお互いを認め合い、彼らは成長した。</p> <p>◆実施時期 2015/8/3～2016/2/27</p> <p>◆参加人数 メンバーとなるのは10名、毎回平均7人×13回=91名</p> <p style="text-align: right;">参加総人員：91名</p>		



能の練習風景(講師 大島衣恵氏)



小鼓の体験(講師 横山幸彦氏)



舞台発表(伝統芸能でピース・ひろしま楽!)船弁慶



最後の挨拶

#### ◆実施に伴う効果

今回の事業での子ども達の体験が当団体の大きな活動力となる。これまでは、お稽古と発表のみだったが、話し合いを多く持つことによって子ども達のことよく分かり、今後の活動に活かせる可能性が出てきた。メンバーは話し合っ自分たちの役割を決め、実現に向かうことに興味を持っていることがよくわかる。

今回の「体験コーナー」は大人にとっても新鮮であり、内容は完全ではないが彼らの「体験コーナー」に優しい感想も多く、次回はこうしたらいいのでは？というメモも届いている。子ども達の伝統芸能体験は、東京都の試みよりも3年は早く、能に関して現在いろいろな流派で子ども達を対象にして講座を行っている。喜多流大島家の指導の基に能を会得したが、体験コーナーの内容はすべて彼らに任せた。その意味では、どの分野でもモデルケースになる。伝統の世界への誘いに彼らが取り組んで、広める役割をしたことで、彼らの成長とともに地域への影響も期待できる。

#### ◆苦労した点

- ・受験を控える中学生も参加していて、塾などで忙しく、全員参加が難しいが、最終的な発表会では全員揃った。彼らは話し合い以外にも連絡を取り合っていたことがわかる。
- ・最初はアイスブレイクなどでメンバー同士が親近感を持つことから始まったが、目的に向かう方向でのコミュニケーションを多くすることでメンバーが親しみを持てるように工夫。司会進行、筆記などの交代など。グループ名が決まったことで、メンバーの結束が強くなった。
- ・メンバーに任せるところで、どの程度の口出しが必要かに苦労する。

#### ◆今後の課題・発展の方向性

- ・「桜華」としてのメンバー意識が強くなり、能が好きという共通点があるので、当団体の目的の1つでもある和 문화継承で彼らの役割を活かせる可能性が大きくなった。また、地域での理解に繋がる可能性も出てきた。
- ・話し合いの中で、海外にホームステイした、これからする、などの声があり、ホームステイをしたときの能の紹介のための英会話の会の実現も行う予定にしている。
- ・学校では伝統音楽、芸能などを実際に体験することは少ないが、当団体では西洋的なことのみが音楽、芸能ではなく、脳活性化においての価値もあるとして活動しているので、幅広い考え方の青少年育成をより発展できた。
- ・受験などで、この活動を中断する子どもも出てきそうところが課題でもある。

#### ◆活動を終えての感想・意見等

今回の活動が自由にできたことには大変感謝します。

最近では伝統文化への興味が増えてきた感じがしますので、より本物に近いところで活動を続けて行きたいところです。いつの時代も小さいときにやっていたことは、年齢が高くなってもいつか思い出し、何らかの行動に関連するということなので、「桜華」のメンバーも長い目で見ています。

活動名		団体名	ぐるぐる海友舎プロジェクト実行委員会
ぐるぐる島ペインティングプロジェクト 一島の地域資産を活用した島の未来を担う人材教育		地域	広島県江田島市
		代表者	役員 谷村 仰仕
		支援金額	46万円
活動概要	<p>江田島の自然、建築、人といった地域資産を活かした“素敵体験”イベントを通じて、子供達が将来、島で働きたいと自然と思ってもらえるような思い出づくりをおこなう。ただし、主催者、学生スタッフ、そして保護者といった大人達も子供達と一緒に取り組める内容を目指す。その結果、地域を愛する多世代との協働作業を通じて自然や歴史、そして仕事への興味関心を涵養する。また、一過性のイベントで終止するのではなく、シリーズものとしてイベントを開催。各回のイベントのクライマックスには、体験した内容を題材に参加者全員でアクションペインティングを行う。最終的に、それらの絵をひとつに編纂し「動く絵本」として完成させるプロジェクト。</p> <p>◆実施時期 2015/7/30～2016/3/3</p> <p>場所： 江田島の各所（長瀬海岸、海友舎、三高ダム麓の芋畑、ポークアンドチキン江田島）、白島集会所、広島国際大学呉キャンパス</p> <p>◆参加人数 子供 55名、大人 40名、スタッフ 41名、講師 16名</p> <p style="text-align: right;">参加総人員:152名</p>		



「海」のリズム・アドベンチャー  
【SUP 体験！SUP 筏で大冒険！】



「土」のリズム・アドベンチャー  
【陶芸体験！おぼけスタンプづくり！】



「大地」のリズム・アドベンチャー  
【芋掘り体験！一番でっかい芋はどれだ！】



「生き物」のリズム・アドベンチャー  
【乗馬体験！ぐるぐる動物園をつくらう！】

#### ◆実施に伴う効果

この度、メイン会場となった海友舎は築 110 年の木造洋館であるため、貴重な歴史的建造物である一方で、老朽化や改築などにより使用する際に一部注意を要するところもある。そのため、当初は子供達を受け入れることに心理的な抵抗があったが、今回の活動を通じてそのような心配が軽減され、むしろ将来性を鑑みて子供達にも積極的に開放していこうという想いを強める結果となった。

現に、呉市のこども会のイベントの一環として 50 名ほどの子供達を対象とした陶芸教室の会場として海友舎を使用したいといった打診があった際も以前ならお断りしていた可能性が高いが、今回の活動での経験が自信となり実現することができた。50 名ほどの子供達が海友舎で陶芸づくりにワイワイと勤しんだ風景は圧巻であった。建物は使われることによって命が宿ることを再確認できた。協力頂いたスタッフと多くの関係者に感謝が尽きない。

各回のイベントの具体的な内容については、講師役を引き受けてくれた江田島を拠点に活動する他の団体の代表者と打合せの上決めたので、団体間の相互理解や連携強化につながった。

喜ばしい予想外な副産物もうまれた。今回学生ボランティアスタッフとして活動に参加した学生の 1 人はこのイベントをきっかけに島に移住し、協力活動団体の 1 つでこの 4 月から働くことになった。就労支援や若者の移住促進にも繋がったことは望外の喜びである。

参加した保護者からは、「江田島にこんな素晴らしい場所があることを知らなかった。」「思っていたよりも江田島が近いことがわかった」「定期的に開催してほしい」「一家族だとここまで盛り沢山のプログラムは用意できない。充実した内容で大変面白かった。」「子供達が将来大人になったときに思い出してほしい貴重な体験になった」などの感想を頂いた。江田島との心理的な距離感を縮める一助になっていった様子にさらなる可能性を感じた。

子供達にもヒアリングしたところ、人気が高かったのは、やはり皆で一緒に取り組んだ「SUP 筏で冒険しよう！」や全員で一緒に描いた「ETAGURAM」などのアクションペインティングであった。子供たちの中に協働する面白さが少しでも芽生えたのなら嬉しい限りである。

#### ◆苦勞した点

保護者からは夏休み期間にイベントを多数開催してほしいとの要望が多かったが、スタッフのほとんどが社会人であるため平日の開催が難しく苦勞した。スタッフの声掛けやケアもあって、幸運にも今回は怪我人や病人を出さなかった。ただ、参加者の中には小さなお子さんを伴って参加される方も多く、特に夏場の期間は熱中症等の対策には苦勞を要した。

予算は講師役を引き受けてくれた地域の方々の理解と多大な協力により助成金と参加費で滞りなく実現できた。参加者は Facebook やロコミなどで問題なく集めることができた。イベントの企画協力や会場の提供や備品の貸し出しなど地域や協力者の皆さんも協力的であった。

#### ◆今後の課題・発展の方向性

ぐるぐる海友舎プロジェクトには様々な特技を持った個性的なメンバーが 20 名ほどいる。しかし、今回江田島の地域の方々に講師役として招聘し、メンバーはサポート役に徹してくれたこともあって、メンバーのスキルを存分に活かしきれなかった。その点が最大の反省点である。親子で参加してもらいイベントに拘ったため、各回の参加人数の定員が 20 名ほどに限定することになった。参加者の輪をどうやって広げていくかについては今後課題としたい。

一方で展開のヒントも多く得た。当初、島外からの参加者が多いものと予想していたが、島内の参加者も意外に多かった。特に夏休み期間は両者とも子供向けのイベントを求めていることが分かった。また、初めは遠慮がちに参加していた保護者も子供達の歓喜につられて、次第に一緒になって体験や制作をしている姿が印象的であった。今回、保護者からも「楽しかった」「貴重な体験になった」との感想をいただいた。子供達だけでなく保護者やスタッフも含め、参加者全員にとって記憶の残るイベントになったようであった。残念ながらイベントはどこまで行っても一過性のものでしかないが、イベントを通じて日々子供と接する保護者達の意識が多少なりとも変われば、長い目で見たときに大きな影響を及ぼすのではと考えている。今回その手ごたえを感じた。子供達と大人が一緒になって体験でき、楽しめる点は今後も大切にしていきたい。

#### ◆活動を終えての感想・意見等

この度、ぐるぐる海友舎プロジェクトのメンバーをはじめ、江田島の協力団体、講師役の活動家、そして参加者の皆さんの協力によって、各回思い出深い充実したイベント内容になった。子供たちだけでなく大人たちもまた今回のプロジェクトを通じて協働する面白さ、重要性を再確認できた。関係者一同、今回のプロジェクトを実現するにあたり支援して下さったマツダ財団の皆さんには大変感謝している。

申請時は、4 回のイベントを予定していたが、実際には、スピンオフイベントも含めて 6 回のイベントを開催することができた。また、最後の成果物として当初は、絵本をイメージしていたが、各回のアクションペインティングののびのびした成果物を眺めているうちに、絵本もアクションの精神を大切にまとめようとのアイデアが生まれ、「動く絵本」キットとして成果をまとめることになった。進めていく過程で当初計画よりプロジェクトを発展的に展開できた点は主催者である我々も取り組んでいてとても楽しかった。これから定期的に、「動く絵本」キットを使ったワークショップを開催しようと計画している。引き続き「つながりをご縁に！ご縁をカタチに！」をモットーに今回得た貴重な経験を生かして活動を展開していきたい。また機会があればご支援いただくと幸いです。

活動名		団体名	あきおおた国際音楽祭 実行委員会
2015 あきおおた国際音楽祭 with Bechstein		地域	広島県山県郡
		代表者	事務局長 中川 圭子
		支援金額	25 万円
活動概要	<p>被爆 70 年を迎え、広島之源流の町で「未来を担う子供達から世界に平和のメッセージを発信しよう！」と音楽とアートの祭りを開催。第 1 部は、日本を代表するピアニストであり、子供達の育成をライフワークとして活躍されている仲道郁代さんの演奏。第 2 部は、詩人アーサー・ビナードさんの指導のもと、ヤマユリを被爆者に届けて 65 年を迎える上殿小学校の児童が、作詞活動を行い詩「やまゆりのきもち」ができあがり、これにロス在住の Mayuka Thaïs さんが作曲、Scott Nagatani さんの編曲で歌が作られた。「やまゆり物語」は今までの上殿小学校の活動写真をバックに SHIORI さんが朗読し、子供達とマユカさんで「やまゆりのうた」を歌った。さらに公募で集まった詩を元にした「へいわくんくん」の詩には、インターナショナルスクールの高校生が作曲、エリザベト音大の学生坪北紗綾香さんに編曲してもらったものを合唱団総勢 72 名で合唱。アート部門では、広島に届けられた千羽鶴等を使い、園山春二さんとその仲間達が中心となり竹のドームを創作。その作品は、その後様々な所で巡回展を開催。今後、you-tube 等を通じて世界に発信する予定である。</p> <p>◆実施時期  8/1-2 あきおおた国際音楽祭（戸河内ふれあいセンター）  8/1～10/19 アート展 巡回展</p> <p>◆参加人数  合唱団関係 83 名、入場者 364 名</p> <p style="text-align: right;">参加総人員：447 名</p>		



被爆 70 年 広島之源流の町あきおおたで音楽とアートの祭りを開催



広島に届けられた千羽鶴等を使い、竹のドームを創作



ヤマユリを被爆者に届けて 65 年を迎える上殿小学校の児童など子どもたちの手による 2 つの歌が、仲道郁代氏のピアノ伴奏で披露された



#### ◆実施に伴う効果

今までなかなか地元の人に音楽祭が認知されておらず、クラシックへの敷居が高かったようだったが、この度、地元の小学校や子供達、また地元の合唱団の方々に参加してもらえた事で、今まで以上に沢山の方々から喜びと感謝の言葉を頂いた。近隣の町からもこれまでの実績を見て、アドバイスをしたいとの相談があった。

また、プロの音楽家の中でもこのピアノが評判になっており、音楽祭への出演者の依頼が増えてきている。

#### ◆苦勞した点

いつも苦勞しているのが、素晴らしい出演者と企画をしても、交通の便が良くない田舎の町に人が来ていただけるかという事と、予算的に賄えるかという心配である。場所が場所であるが故に、チラシ等の入れ込み、ポスターの掲示等、DM、Facebook等のPRに力を入れているが、2万枚を超えるチラシの入れ込み等、時間的人為的負担がかかりすぎているのが現状である。

地域の方々、公的機関との連携の難しさもいつも感じている。

#### ◆今後の課題・発展の方向性

これからは、「あきおた国際音楽祭」が沢山の人達に認知してもらえ、地域の活性化にも繋がるような音楽祭に成長するよう、継続して開催できるような地域の体制づくりをしていくことが大切である。また、ピアノに関しても、性能維持のためにももっと頻繁に使用してもらえるようにしていく事が大切である。2年後の出演者も決まっているので、地域の人達を巻き込んだきちんとした体制づくりをしていき、地域の誇りとなる音楽祭を目指して頑張っていきたい。

今年度制作した2曲の歌について、これからも音楽祭で地元の子供達を中心に歌い繋いで行く。また、英語の字幕をつけてyou-tubeにてUPしていき、英語でも世界中の人達に歌って頂けるようアプローチしたい。

来年度の大植英次さんプロデュースの威風堂々クラシックにて、この度制作した「やまゆりの歌」を子供達の合唱等で取り上げて頂ける方向で検討を頂いている。他にも様々な所で取り上げて頂けるようにする。

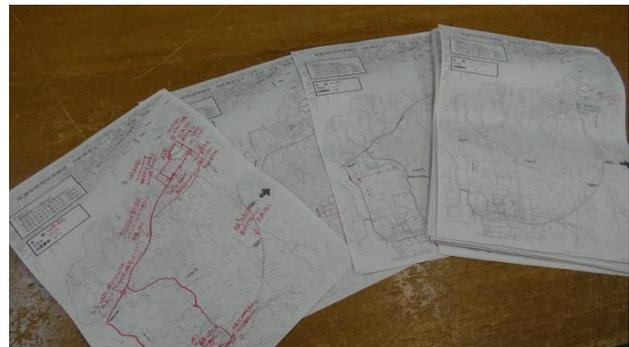
#### ◆活動を終えての感想・意見等

この度、マツダ財団よりの助成金を頂けた事で、安心して行事に取り組む事ができました。心より感謝しております。今後も地道な活動を継続していきたいと思っております。

<b>活動名</b> 自転車文化の創造を担う大学生・高校生を対象とした次世代リーダー育成プログラム	団体名	ひろしま輪輪プロジェクト
	地域	広島県尾道市
	代表者	代表 茂田 幸嗣
	支援金額	20万円
<b>活動概要</b>		
<p>1. 活動の背景： 広島で多くの人が自転車を利用しているが、歩道をジグザグに歩行者を縫うように走ったり、夜間の無灯火やスマホしながら運転など、自転車のルールやマナーの啓発が喫緊の課題となっている。一方で、自転車の走行空間が不十分であるなど、自転車を適正に利用できる環境の整備も必要とされている。これらの課題を解決していくための鍵となるのが、若い世代である。若者は自転車の利用率が高く、ルール違反や危険走行なども犯しがちであるが、教育と啓発次第では社会の一員として自覚を持ち、模範的な走行や積極的に社会に働きかける可能性を持つ。そこで、当会では自転車文化の創造を担う次世代リーダーの育成に取り組むこととした。</p> <p>2. 活動の目的と方針： ここでいう自転車文化とは、社会の誰もが正しく安全に自転車に乗ることができ、日常生活での移動が自転車を用いて効率的効果的に行うことができることを基本とする。更には移動手段としてだけではなく、スポーツや旅行など趣味や自己実現の手段として自転車が活用され、楽しく健康で生きがいに満ちた社会が実現されるための社会の仕組みや人々の意識・習慣をイメージする。そのような自転車文化を創造し、継承・発展させていくためには、若い世代が積極的に参画し、中心的な役割を担っていく次世代リーダーを育成することを、本活動の目的とする。</p> <p>3. 活動の具体的内容： 自転車文化を担う若いリーダーの育成を目的として、高校生や小学生の PTA 役員に学生による地域の自転車にとっての危険箇所調査の実施を提案。実施に当たり助言や情報提供、調査用の地図の作成・提供等の側面支援を実施した。</p> <p>◆実施時期 2015年1月～現在 尾道高校 2015年6月～現在 長江小学校</p> <p>◆参加人数 尾道高校地域貢献部 6名、尾道高校生 99名 長江小学校 PTA 役員 3名、長江小学校生徒 50名</p> <p style="text-align: right;">参加総人員：約 160名</p>		



地域貢献部との調査に向けた打ち合わせの風景



調査結果の取りまとめ結果

### 作成例(書き込み方)



調査用地図 記載例



地図を作成する長江小学校の生徒

#### ◆実施に伴う効果

(尾道高校)

- ・地域貢献部の学生が、危険箇所調査の経験を経て、自転車文化を担うリーダーとしての資質が向上した。
- ・地域貢献部顧問の教員が、当該活動の経験を経て、自転車文化を担うリーダーの育成するためのノウハウを身につけた。
- ・危険箇所調査に参加した生徒の交通安全の意識が向上した。

(長江小学校)

- ・PTA 役員が、自転車文化を担うリーダーの育成するためのノウハウを身につけた。
- ・危険箇所調査に参加した生徒の交通安全の意識が向上した。

#### ◆苦勞した点

事業に協力いただいた尾道高校地域貢献部及び長江小学校 PTA は、それぞれ自らが主体となって事業を進めたいという思いを持ち、当会は共同実施者という立場には立てず、調査方法の情報提供や、助言、調査用地図の作成・提供等といった側面支援という形での参画に止まらざるをえなかった。このため、当会によるスケジュール管理ができず、当会の考える方法と異なる方法により調査が行われたり、これらの団体が行う他団体との連携・協議に当会が参加できなかつたりしたため、当会の計画の達成率は 5 割程度となった。

#### ◆今後の課題・発展の方向性

- ・自転車危険箇所マップはまだ素案の段階であり、今後調査の結果得られた意見の内容の確認や、地図の表記方法の精査等の作業を経て完成させる必要がある。
- ・自転車危険箇所マップ完成後は、役に立ててもらえるところに配布したり、危険箇所マップの説明会を開催したりするなどし、周知していく必要がある。
- ・関係機関への要望活動の基礎資料としても活用していきたい。

#### ◆活動を終えての感想・意見等

事業の実施主体となれず、側面支援という形で事業に関わることの難しさを痛感した。

活動名  光と森のカーニバル	団体名	NPO 法人 LOVE ECO 周南
	地域	山口県周南市
	代表者	理事長 福田 陽一
	支援金額	30 万円
活動概要		
<p>夏の部として 7/11（土）13 時～17 時まで自然体験プログラムを開催。ただし、この日は天候不良のため夜の映画鑑賞は中止とした。幼児から小学生とその保護者を対象に 38 人の参加者が集まった。自然体験プログラムはアーチェリー、ツリークライミング、ラフティングボート、ジップライン、トランポリン、スラックラインなど。参加者は希望する各プログラムを楽しみながら自然と触れ合っていた。</p> <p>秋の部として 10/31（土）13 時～19 時まで自然体験プログラムを開催。ハロウィーンをテーマに自然体験プログラムを用意した。幼児から小学生とその保護者を対象に 45 人の参加者が集まった。プログラム内容はアーチェリー、ツリークライミング、ジップライン、トランポリン、スラックライン、ジャックオランタン作り、木の実で作る工作、映画鑑賞などを楽しんだ。</p> <p>◆実施時期 7/11、10/31 周南市須万</p> <p>◆参加人数 7/11 子ども 27 名、保護者 11 名、スタッフ 8 名 10/31 子ども 29 名、保護者 16 名、スタッフ 11 名</p> <p style="text-align: right;">参加総人員：102 名</p>		



<アーチェリー> 狙いを定めて初めてのアーチェリー体験



<ジップライン> 木から木へワイヤーを渡り滑空 気分はターザン



<ジャックオランタン> 家族で作りました



<ツリークライミング> みんなで木登り眺めは最高

#### ◆実施に伴う効果

今回の助成事業により新たな自然体験プログラムとして、ボッチボールと森の映画鑑賞を取り入れることができた。またジップラインはこれまでより規模を拡大することができた。開催した中山間地域には児童数が8人であったが、都市部から来た参加者との交流を喜び楽しんでいった。参加した人はよりこの地域に好感を持ちまた来たいと喜んでいった。

自然の中で一生懸命に遊ぶ子どもたちがいて、保護者は家に帰ると「よくがんばったね」とほめてあげるようお願いしたことで、親子のコミュニケーションが向上した。

#### ◆苦労した点

- ・ボランティアスタッフを集めることには苦労した。
- ・外部講師もわずかな謝金で依頼したので申し訳ないと感じた、もうすこし予算を大目に確保すべきだった。
- ・外部へのPRはチラシを配布することに労力がかかった。
- ・リスクマネジメント、安全への配慮は細心の注意を払った。
- ・屋外での自然体験なので天候に左右されるため、天気予報は何度も確認した。

#### ◆今後の課題・発展の方向性

- ・プログラムを安全に遂行するためにはスタッフの習熟度をもっと高める必要がある。
- ・子どもたちの心にしっかりと残る、スタッフの声掛けや表情、態度は改善していく。
- ・今後こうした事業を自己資金で開催できるよう組織の強化、スタッフの拡大、備品の充実、資金の確保が必要である。ぜひ来年度も継続して行いたいと考える。

#### ◆活動を終えての感想・意見等

参加した子どもたちの笑顔が良かったです。これからの将来を担う彼らにとって、汗を流して運営している大人の姿、開催した地域の方々が大切に守ってくれている地域があるから、貴財団が助成してくれているから、みなさんの力があってこそ活動ができたことは子どもたちにも伝わったと思います。そして彼らが大きくなったときにまた次世代のために活動してくれることを願っています。

活動名  おごおりウィークエンドアドベンチャー	団体名	おごおりウィークエンドアドベンチャー実行委員会
	地域	山口県山口市
	代表者	委員長 高橋 則彦
	支援金額	25 万円
活動概要		
<p>小郡地域の小学校 3 校の 4～6 年生による年齢や学校を超えた班編成でさまざまな生活・自然・社会体験を通して、子どもたちの主体性や生き生きとした感性を育てることを目的として活動している。大人の「こだわり」と「遊び心」で、子どもの「自由な心」に触れてみませんかとボランティア指導者を募り、地域の隠れた「名人」「達人」を発掘し指導者として活動を行っている。</p> <p>◆実施時期 2015 年 5 月～2016 年 3 月 場所：山口県山口市、島根県浜田市、鹿足郡津和野町</p> <p>◆参加人数 5 月:86 名、6 月 106 名、7 月:92 名、8 月:85 名、9 月:77 名 10 月:74 名、12 月:79 名、1 月:85 名、2 月:70 名、3 月:93 名</p> <p style="text-align: right;">参加総人員:847 名</p>		



ウォークラリーの答えの書いてある石碑を見つけたよ



キャンプ 2 日目の朝のラジオ体操



12 月の寒空の中、10 キロ完歩した後のスープは最高！



つくるぞ！究極のぎょうさ！！  
みんなで協力してのぎょうざづくり。うまく出来たかな？

#### ◆実施に伴う効果

農業体験では、地域内の農業高校で牛舎や豚舎、農場を見学し、普段することのない牛の乳搾りなどを体験することにより、肉や野菜、果物、牛乳などの食品がどれだけの手間と時間がかかってきているのかなど、食に対する理解を深めることができた。地域の体育館の駐車場を利用しての公共交通機関利用教室では、路線バスの基本的な乗り方や降り方、マナーを学習、車椅子体験などを通じ公共交通への関心や理解を深めるとともにノーマライゼーションへの理解を深めることとなった。山口市秋穂の中道海水浴場でのキャンプ体験・ヨット教室では、海のない小郡ではほとんどの子ども達にとって初めてのヨット体験であり、みんな意欲的に取り組んでいたと同時に大学生のヨット部の指導者から海辺での安全確保や自然との協調姿勢など日常では意識をむけないことを学習できた。キャンプ体験では、キャンプファイヤーでの班別の出し物やサンドアートなどを通じ、年齢や学校という枠をこえた相互理解を図るうえでも大きな成果がみられた。鉄人ウォーキングでは、普段は車でしか通らないような道をひたすら歩き、ゴールの公園をめざしたが、片道約 10 キロの道のりは、多くの子ども達にとって初めての経験であり、友達と励ましあいながらも最後まで歩く姿を見ると、心身ともに逞しくなったと感じることができた。

以上のような、年齢や学校を越えたあどべん班での年間の活動を通し、あどべん団員にとっては、友達や仲間を増やし、地域のさまざまな生活体験や自然体験を通して、多くのことにチャレンジし自分らしさを見つけるかけがえのない経験となった。

#### ◆苦労した点

地域外での活動を企画しようとした場合は、バスでの移動が最適と思われるが、料金の高騰で予算的に厳しかった。野外での活動が多く、荒天の際の実施の判断や中止した際の代替案、活動場所の確保に苦慮した。実際に今年は 2 回、雨天により活動を変更した。熱中症の子どもはいなかったが、特に夏季の野外活動においては、水分補給や体調管理に細心の注意が必要であった。ヨットの体験では、全員ライフジャケットを着用させ、監視船も用意し、安全管理には十分な配慮をおこなった。ヨット待ちの子ども達は、海水浴をさせていたが、10 数名のスタッフが一緒に海に入り監視をおこなった。

#### ◆今後の課題・発展の方向性

今回、年間を通じて、2 回、雨天で直前に活動を変更し、代替活動に対する十分な準備できなかったが、荒天でも代替活動にならずにすむような活動の企画が求められる。団員に「やり遂げた」という達成感や充実感をもたらすような活動を主に企画しているが、今後は、社会貢献につながるような活動も検討していきたい。

活動を始めてから今年が 17 年目となり、スタッフの高齢化、固定化が進んでいるため、地域の新たな人材の発掘を継続的に行っていきたい。

#### ◆活動を終えての感想・意見等

今年は、長距離のサイクリングとスキーの目玉企画が中止となって、団員からも残念がる声が聞こえてきましたが、年齢や学校をこえたあどべん班での活動で、友達や仲間を増やし地域の活動の中でさまざまな生活体験や自然体験を通してできるだけ多くのことにチャレンジして自分らしさを見つけることが出来たと思います。

このような、貴重な機会をつくることができたのも、財団法人マツダ財団様のご支援の賜物であり、大変感謝申し上げます。

活動名		団体名	遊巣の里
学校・地域・ちびっこが奏でる 三つ巴のハーモニー!!!		地域	山口県岩国市
		代表者	代表 新庄 菊子
		支援金額	25万円
活動概要	<p>1. コミュニティ・スクールの活動を通して、「遊巣の里」も地域住民として学校に出向き児童との交流をした。</p> <p>2. 地域性を活用して国際交流活動を行った。 折り紙体験・和服着用体験・ひなまつり・生け花体験など</p> <p>◆実施時期 2015年4月～2016年3月 場所：岩国小学校、米軍基地ファミリーサービス、その他</p> <p>◆参加人数 体験教室には外国人220名を含む</p> <p style="text-align: right;">参加総人員:1,050名</p>		



国際交流「田植え」(日米合同)



米軍基地のみなさんも一緒に岩国寿司作り



米軍基地にて国際交流「ひなまつり」



岩国市の郷土料理「岩国寿司」作りを学ぶ小学生

◆実施に伴う効果

- ・小学校コミュニティ活動を通して  
平成 28 年度再度参加してプログラム化する運びとなった。
- ・国際交流を通して  
平成 28 年度は、県立岩国工業高等学校、岩国市岩国中学校、岩国小学校で本格的に取りあげる運びとなった。
- ・岩国基地在住家族の参加者が増え、平成 28 年度は活動内容が増えた。

◆苦勞した点

過去における活動が実を結び、国際交流では、基地側の理解が増え、指導面で苦勞したが理解協力により着工できた。

学校面の指導にあたっては、その都度苦勞した。しかし、学校側の初めての体験を生かすことができた。

◆今後の課題・発展の方向性

行事ごとに振り返り会を持ち、前進することにした。

◆活動を終えての感想・意見等

後任者の選出に困難が多かった。

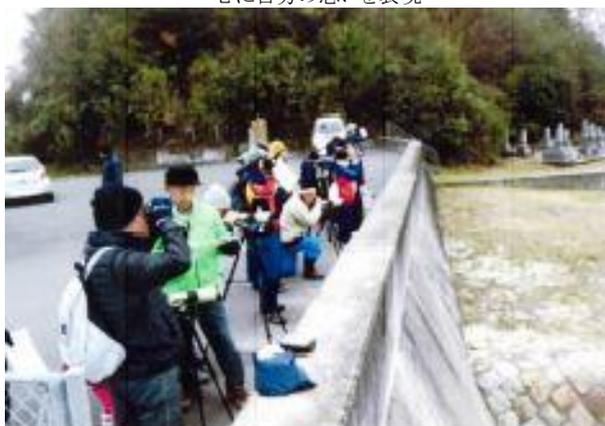
活動名	団体名	右田教育会
	地域	山口県防府市
	代表者	会長 岡本 利行
	支援金額	25 万円
活動概要		
<p>右田地区の豊かな教育文化の振興を目的に教育関係機関、諸団体と密接な連携を図り、特に青少年健全育成にはウエイトを置いた。幼保、小中学、福祉施設児童、子ども会、PTA、母親クラブ、地域行事等での行事企画へ積極的な支援(共催)をし、毎年度末には三世代ふれあいの継続イベントを主催する。</p> <p>◆実施時期 2015年4月～2016年3月 場所：右田地区</p> <p>◆参加人数 右田を知る会 53名、佐波川に学ぶ会総会 45名、大平山森づくり 2名、右田小4年生佐波川親水体験学習 102名、佐波川に遊ぶカレー大作戦 134名、金子みすゞの詩の感想画を描く会 68名、右田小6年ミシン 6名、旧山陽道草刈 25名、右田地区文化祭 15名、玉祖小放課後子ども教室竹トンボ作り 37名、輪飾り作り 100名、佐波川探鳥サイクリング 36名、玉祖小3年生竹トンボ作り 56名、玉祖小1年生昔の遊び 65名、右田小3年生昔の暮らし 116名、3世代ふれあいの集い 300名</p> <p style="text-align: right;">参加総人員:1,452名</p>		



金子みすゞの詩を読んで感想画を描く会  
一心に自分の思いを表現



小学生が佐波川親水体験学習  
ゴムボートの漕ぎ方を練習



佐波川探鳥サイクリング大会  
望遠鏡の扱い方や野鳥観察の留意点を聞いて観察



「第21回三世代ふれあいの集い」  
感想画・感想文優秀作品の表彰

◆実施に伴う効果

佐波川に関する活動については、地元の行事として歓迎されている。自治会長さん方が協力して下さり地域文化の継承にもなってくれればと思っている。学校の教育活動に、依頼を受けて参加しているが、有益であったと感謝されている。

年末の「輪飾り作り」は伝統文化の継承活動として感謝されている。

◆苦勞した点

会員が高齢化して、動ける人数が減少してきている。活動の為にはある程度の人数が必要である。カレー大作戦については、右田地域の自治会長さん方が多数参加して下さり感謝している。右田地域の自然を生かした活動として今後も継続していきたい。

◆今後の課題・発展の方向性

佐波川に関しては、国土交通省で計画的に河川敷の改修を進めて下さるようである。住民により川に親しむ雰囲気が高くなるように努めていきたい。

会員の高齢化に伴い、新しい会員の勧誘が必要である。

◆活動を終えての感想・意見等

佐波川によって防府平野ができたことを子供達は知らないままである。防府市にとっては母なる川が佐波川であることを知らしめたい。特に右田の者は佐波川とは深い関係にあることを分かせたい。

学校との関わりは高齢者にとっても楽しい場である。子供達と一緒に物づくりをして命の泉を分けてもらっているような気持ちである。機会を頂ければこれからも協力したい。

活動名	団体名	創作・風鎮神楽会
	地域	山口県防府市
	代表者	代表 古谷 忠隆
	支援金額	30万円

**活動概要**

防府市西浦の開作（開作東、開作西）は、1824年、毛利藩・第10代藩主、毛利斉熙公により築き立てられた約150町歩におよぶ広大な開作である。同年2月24日の潮留め以来、先人たちは荒れた土地を日夜耕し、幾多の困難を乗り越え、今日の米作1500俵の収穫を得るほどの豊かな土地（田畑）を築き上げてきた。その過程で多くの自然災害とも闘ってきた。斉熙公は、新開作の築き立てに当たり萩の金谷天満宮で連歌会を開き「開けしは神の功績ぞ国の春」と詠われ、やがて明治維新へと変化し近代日本の夜明けとなった。創作神楽「斉熙公と国の春」の創作に取り組みながら、困難にも屈せず力強く生きることの大切さを地域の皆さんに伝え、特に青少年の健全育成に努めた。昨年5月16日（土）には、土曜授業として西浦小学校全生徒（130名）の前で風鎮神楽を演じた。引き続き、同年8月には世界ジャンボリー大会の地方大会が、西浦小学校で開催され、西浦小学校4・5・6年生徒と世界から来られた青少年スカウト達に、創作中の神楽の一部（ふるさと西浦と神楽の説明は英語）を披露しおもてなしを行った。

◆実施時期  
2015年4月～2016年3月

◆参加人数  
世界ジャンボリー大会・西浦小学校（体育館）外国人50名、西浦小生徒、4,5,6年生73人、父兄30人、西浦音頭会員25人、JA徳地防府西浦支所、西浦まつり神楽会場、約300人  
参加総人員：延べ約1,500名



5/16 西浦小学校土曜授業  
古谷忠隆会員の話



7/7 神楽指導  
8月世界ジャンボリー大会での開催に向けて



8/5 世界ジャンボリー地方大会



11/1 西浦まつり 世界的和太鼓の演奏

#### ◆実施に伴う効果

青少年健全育成の取組みとして、西浦小学校児童・134人と父兄に与えた影響は大と考える。

-児童代表お礼の言葉より抜粋 6年 池本愛権

西浦の歴史や神楽についての紹介や和太鼓などを体験させていただきました。

普段太鼓をたたくことがないので、うれしかったです。これからも西浦の「風鎮神楽」を大切にしていきたいです。

#### ◆苦労した点

- ・予算：神楽衣装（一式のみ購入）を計画どおり枚数を揃えることができなかった。
- ・指導者不足：神楽舞という伝統芸能の舞の創作に当たって、奏楽（太鼓、笛など）を含め舞を教えていただく指導者不足のため計画通り進まなかった。
- ・外部へのPR：マツダ財団支援事業として「のぼり」を作成、また口頭で出演時、PRに努めた。
- ・地域の理解：第一作「創作・風鎮神楽」を演じてきているため、地域の理解度はある程度あるが、第二作目「創作・斉熙公と国の春」に関しては、引き続き来年度以降に、完成を目指し、継続して地域への理解に努めていきたい。

#### ◆今後の課題・発展の方向性

- ・指導者不足の課題を克服：神楽を完成させるために、日本全国、外国においても神楽の指導をされている専門家に指導を受けることにした。元浜田市金城町の町長だった「安藤美文氏」に、2016/3/27 浜田市でお会いし、指導をお願いした。安藤氏は日本各地、ニューヨーク、アジアにおいても指導されている専門家である。「姫」「奏楽」「笛・太鼓」「大蛇」となんでも1人で、演じ指導される。しかも、ボランティアによる指導である。創作神楽の台本の制作および舞、太鼓・笛等の指導も安藤氏にお願いすることにした。
- ・発展の方向性：2016年4月から、さらに一貫性のある実施計画を作成し取り組んでいく。計画があれば進路が定まり、進み具合もわかる。障害にぶつかったときや新しい好機が訪れたときに計画を調整することが可能だ。衣装等についても、浜田市・「神楽ショップくわの木」の指導・支援をいただくことになった。1824年、斉熙公が築立された西浦新開作。あれから192年経過した150町歩の田畑は、今や少子高齢化で落日の憂き目にある。
- ・2015年4月からマツダ財団の支援でうぶ声を上げた創作神楽「斉熙公と国の春」は、会員共々同じ価値観と熱意をもつ仲間と取り組んでいけば、青少年健全育成のみならずふるさと創生としても広く脚光を浴びることになると信じる。・・・夢実現！

#### ◆活動を終えての感想・意見等

**マツダ財団の皆様へ感謝：** 私たちの住んでいる開作地区から、マツダ西浦工場の生産の息吹が毎日聞こえます。Be a Driver 毎日力をいただいています。これからも会員一同、創作神楽を通して青少年健全育成、ふるさと創生にも力を注いでいきます。

**マツダ西浦工場へ感謝：** 総務課の多くの皆様にご指導、ご支援いただきました。

**山口県健康福祉部子ども子育て応援局・子ども家庭課青少年家庭福祉班：** 情報がなく、どのように取り組めばよいか、困っていた時に、マツダ西浦工場での贈呈式の際、主査・嶋田美和子さんが、わざわざ関係資料ご持参くださり取り組む勇気が湧きました。

**広島県民文化センターの館長さんに感謝：** 西川文人館長さんには、広島神楽・定期公演資料、神楽開催告知ポスター（日本語・英語版）公式ガイドブック・日程表（和文・英文）神楽スペシャルチラシ、外国人観光客用フリーペーパー（Get Hiroshima）等、ご送付いただきました。英文資料は、世界ジャンボリー大会・西浦小学校での地方大会に、活用させていただきました。

**神楽の指導者にめぐりあえたこと：** 日本の伝統芸能を習得するためには良き指導者が必要です。1年間探しておりましたが、活動の終盤になり、幸いにも、良き指導者「安藤美文氏」に出会うことができました。めぐり合いを大切に次年度につなげます。

**西浦小学校へ感謝：** 校長・林秀和先生には、ご多忙にもかかわらず、何回も訪問し、打ち合わせ時、いつもこころよくアドバイスいただき感謝申し上げます。また、教頭・加藤衛先生はじめ実務を担当された河野先生や多くの教職員の方々にもご支援いただきました。生徒会長の関谷さん、ご協力ありがとうございました。

活動名  虹の鯉のぼりプロジェクト	団体名	浅江まちづくりの会
	地域	山口県光市
	代表者	代表 矢部 東洋司
	支援金額	20万円
活動概要		
<p>前回、助成をいただき開催した「虹の鯉のぼりプロジェクト」。</p> <p>もともとは、地元地域の浅江中学校の生徒が東日本大震災の被災地を訪れて学ぶシンサイミライ学校交流会に参加し、東松島市の「青い鯉のぼりプロジェクト」の事を知り地域に発表したことがキッカケだった。その後、市内の他中学校 2 校の生徒たちがシンサイミライ学校交流会に参加したり、独自に被災地に想いを寄せて活動を行う中学校が出てきた。そこで、今年市内全中学校の活動発表の場をつくった。それと共に、青い鯉のぼりをはじめ他の色の鯉のぼりも集め、市内全域を巻き込んで光市虹ヶ浜海岸に鯉のぼりを掲げ、東日本大震災を、中学生たちが学んできた事、想いを忘れずに市内全域に広げるプロジェクトである。</p> <p>◆実施時期 4/26～5/9（設置 4/25～撤去 5/10） 場所：山口県光市虹ヶ浜</p> <p>◆参加人数 鯉のぼり掲揚日 12 日間（2 日間は雨で掲揚できず）： 来場者数 3,000 名以上 5/2（土）「虹の鯉のぼりの下に集う会」： 参加者 150 名 参加総人員：3,150 名以上</p>		



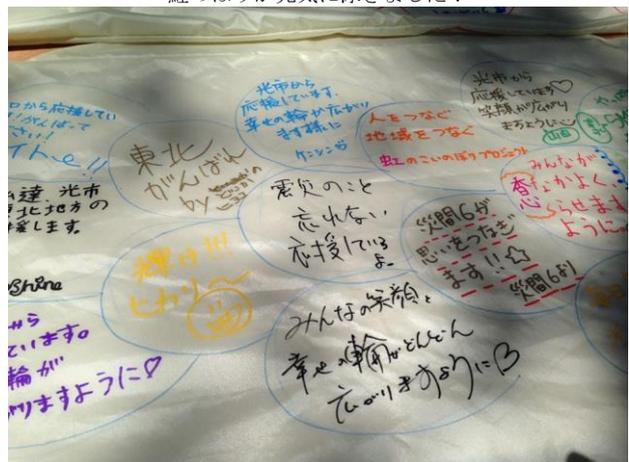
みんなで合唱



鯉のぼりが元気に泳ぎました！



浅江中学生たちの土糞づくり



東北に向けた寄せ書きメッセージ

#### ◆実施に伴う効果

今回、浅江地区のみでなく市内他中学校の活動紹介も行った事によって、来場者も増えて共感いただけるプロジェクトになった。また、中学生たちが取り組んでいる「15歳は地域の担い手」という地域ボランティア活動を地域の人たちに知っていただけたことが大きな成果だと思う。

#### ◆苦勞した点

- ・今回、市内の中学校、地元浅江地区の幼稚園・保育園にも協力をいただいた。しかし、当初計画にあった式典の時に市内中学校の生徒たちにも来場してもらい活動を発表してもらうには、学校という立場から他地域の団体が主催する行事へ参加するという事が難しく、実現できなかった。
- ・ちょうど年度替わりの時期で生徒が変わり、先生も異動で変わったりと調整の難しさを感じた。

#### ◆今後の課題・発展の方向性

地域の活動を市内全体に広げる事の難しさを感じる年となった。しかし、掲示や式典によって東日本大震災から学んだ中学生の思い・活動を訪れた多くの方に知っていただき、また、Facebook ページを立ち上げた事によって共感を呼んで市内外に広がりを見せた。今後は、まだ「シンサイミライ学校交流会」に参加していない市内残りの2校もこの夏に参加するので、来年は市内の公立中学校全ての活動を発表すると共に、当会主催から実行委員会のような組織にして他団体とのパートナーシップを強めて続けていきたいと思う。

また、東松島市の「青い鯉のぼりプロジェクト」の伊藤君たちを呼んで太鼓演奏をしてもらおうと募金活動を行ってくださった団体もある。来年の春に東松島市から「青い鯉のぼりプロジェクト」の方たちを光市に招いて太鼓演奏をしてもらおうと、夢の実現を企画している。

#### ◆活動を終えての感想・意見等

今年度も助成をいただきありがとうございました。  
おかげ様で、「虹の鯉のぼりプロジェクト」の活動を続けていく為のハード面を中心としたベースを作り上げる事ができました。

子供たちは未来への希望であり、地域の希望です。これからも子供たちの想いを大切に、青少年の健全育成が地域の光となるように、しっかりと取り組んでまいりますので、今後ともご支援いただきますよう宜しくお願い申し上げます。

活動名 次代を担う子ども育成プロジェクト 幕末体験「育英塾」	団体名	幕末体験「育英塾」実行委員会
	地域	山口県萩市
	代表者	会長 椋 晶雄
	支援金額	20万円
活動概要		
<p>萩市須佐地域は、山口県の北部に位置し、過疎・少子・高齢社会の進展に依然として歯止めがきかない状況下にある。幕末の舞台となった萩市の中でも、永代家老益田氏により創られた須佐地域には、幕末の志士たちが残した文化や歴史などが多く残されている。中でも幕末の志士たちの学び舎であった郷校「育英館」は、藩校明倫館とともに長州藩の重要な教育施設であり、多くの志士たちを輩出した。しかし多くの歴史や文化などを持ちながら、子ども達は郷里の歴史や文化に触れることなく、ただ家庭から小学校～高校への通学生活を送り、何も郷里の歴史や文化を知ることなく都会へと旅立っていく。生まれ育った地域を知ることが、郷土愛を育むために最も必要な事である。</p> <p>また、一昨年(平成25年7月28日)に発生した豪雨災害では、育英塾の会場である須佐歴史民俗資料館「益田館」も約2.5m浸水し、濁流は大きな爪痕を残す結果となったが、平成27年10月に修復が完成し、再び益田館で3年ぶりに育英塾を開催することができ、子ども達は幕末時代にタイムスリップし、幕末の志士たちと同じ学習活動を行った。</p> <p>◆実施時期 10/1～11/30 場所：育英小学校および須佐歴史民俗資料館「益田館」</p> <p>◆参加人数 子ども17名(男10名、女7名)、教職員・保護者12名 指導者4名、実行委員8名</p> <p style="text-align: right;">参加総人員:延べ82名</p>		



11/18 育英塾① 授業風景



11/20 育英塾② 書道の授業



11/20 育英塾② 剣道の授業



全員で記念撮影

## ◆実施に伴う効果

元気な子ども達の声が、被災の地に3年ぶりに帰って来た。育英塾を体験する子ども達(小学6年生)は、もちろん初めての体験。塾の講師役の先生方も久々の講義にかなり緊張気味であった。受講生たちは、幕末には、かの伊藤博文や品川弥次郎、久坂玄瑞等が交換塾生として、育英館で講義を受けていたことに色んな思いを馳せたことが、後に提出された感想文からも読み取ることが出来た。この塾を通し、大河ドラマには登場しなかった須佐が、「幕末・明治維新を支えた素晴らしいところだ」との郷土意識を感じさせることが出来たことは大きな効果の1つと考える。

過疎・高齢・少子化と地域を取り囲む諸問題は多々あるが、次代を支えてくれるのは地域で生まれ育った子ども達。その子ども達に地域意識(郷土愛)をいかに植え付けるのは、やはり地域の力しかない気がする。その意味では、微力ではあるが、こうした体験こそが地域の誇りとして育っていく子ども達には必要ではないかと考える。

また、この塾を開催するにあたり、学校や地域の方々が実行委員会を組織化し、子ども達のバックアップをしたことは、今後の大きな地域のエネルギーになりそうである。学校・地域・家庭が一体化することが、地域の活性化や教育委員会が進めるコミュニティスクールへの近道でもある。今回の塾終了後の反省会では、単なる須佐だけの事業ではなく、次年度からは志ある者は他地域も受け入れたらとの声もあり、実現の方向で実行委員会で検討を進めている。

## ◆苦勞した点

### ・行事日程調整

会場である須佐歴史民俗資料館「益田館」改修工事の終了日程、学校行事日程、地域行事日程など何かと行事の多い秋季、結局すべての日程が合ったのは11月下旬となった。最終的には、天気にも恵まれる結果となった。

### ・子ども達の学習方法

単なるイベントで終わることなく、価値ある塾を行いたいとの指導者の意向もあり、今年は2回に分けた学習活動で、徹底した郷土学習を行うこととなった。また、一つ一つの諸作法についても、礼の仕方一つについても「感謝」という気持ちをどう伝えるかを子ども達に教えることの難しさを痛感した。

### ・塾開催に伴う諸道具調達

幕末の雰囲気醸し出すための諸道具の調達には予想外の苦勞があった。

①机/豪雨災害で水没した昔の長机を清掃・修理で、不足分は既製の机でカバー。

②衣装/被災した衣装は洗濯、不足分は寄贈募集、購入でカバー。

③藁草履/育英小学校～益田館間の登塾で履く藁草履は、地域で作る人がいなくなった。

## ◆今後の課題・発展の方向性

幕末には、吉田松陰の影響を大きく受けた郷校「育英館」。元々は武士の子弟教育を重んじていたが、幕末には「志」ある者の入校を認め、多くの志士たちを輩出した。当時の思いを育英塾に反映するのであれば、「志を持って入塾するものは拒まない」との思いで、次年度からは須佐に限らず、他地域からの受け入れを検討することとした。萩市内では、なかなかこのような体験はできない。須佐で体験し、萩市内で観光も良いのではとの思いも実行委員会にある。

## ◆活動を終えての感想・意見等

須佐歴史民俗資料館「益田館」の再開館こけら落とし的な事業となったが、この育英塾は単なるイベントで終わるのではなく、基本は「次代を担う人材を育成する」ことである。難しいことではあるが、「誰かが何かを感じてくれれば・・・」必ず地域も変わるはず、夢のような話ではあるが、幾世も時代はこんな夢から変わった気がします。子ども達に夢を与えることが、私達大人の仕事であり、役割だと考えます。23年間も毎年続いていることに、携わって来られた皆さんの努力と協力に感謝したいと思います。

今回の大災害、今まで経験したことのない出来事に、自分自身も大きな痛手を被り、未だに元の姿に帰ることが出来ませんが、こうした事業を展開することで、子ども達やスタッフの皆さんを支えに一步步元に戻ろうとしているのではないかと思います。色々ご支援ありがとうございました。

活動名  夢サポート ながとリーダー養成講座	団体名	夢サポート ながとリーダー養成講座 実行委員会
	地域	山口県長門市
	代表者	実行委員長 藤本 憲司
	支援金額	32 万円

活動概要															
<p>ライフスタイルの多様化や少子高齢化の中、子どもたちの健全な育成を目指して平成24年度より「夢サポートながとリーダー養成講座」を立ち上げ様々な体験活動を実施してきた。本講座では、長門市内や山口県内における自然体験活動や奉仕活動、各種交流事業を通して、郷土を愛し、将来の長門市を支えるリーダーの育成を目的としている。</p> <p>平成 27 年度までは参加対象を小学校 5・6 年生としていたが、平成 27 年度より、参加対象を中学生にまで広げ、更に市内の高校生をメンバーとするジュニアリーダー、長門高等学校、山口大学との連携のもとキャンパス見学やサイエンスフェスティバルを通じて、小・中・高と大学との縦のつながりを生かした活動を仕組んだ。また、学校における学習に対する意欲の向上やキャリア教育といった視点を入れて活動した。</p> <p>◆実施時期 2015/6/20～2016/1/31 場所：長門市内・山口市内</p> <p>◆参加人数</p> <table border="0"> <tr> <td>6/20</td> <td>79 名(内大学生 40 名)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7/25・8/1</td> <td>68 名(内高校生 10 名)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9/12・26</td> <td>52 名(内高校生 14 名)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10/10・11</td> <td>80 名(内高校生・大学生 20 名)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>1/30・31</td> <td>60 名(内大学生 10 名)</td> <td>参加総人員:339 名</td> </tr> </table>	6/20	79 名(内大学生 40 名)		7/25・8/1	68 名(内高校生 10 名)		9/12・26	52 名(内高校生 14 名)		10/10・11	80 名(内高校生・大学生 20 名)		1/30・31	60 名(内大学生 10 名)	参加総人員:339 名
6/20	79 名(内大学生 40 名)														
7/25・8/1	68 名(内高校生 10 名)														
9/12・26	52 名(内高校生 14 名)														
10/10・11	80 名(内高校生・大学生 20 名)														
1/30・31	60 名(内大学生 10 名)	参加総人員:339 名													



6/20 キャンパス見学の際に山口大学図書館前で撮影



8/21 世界スカウトジャンボリー  
海外のスカウトに缶バッジの作り方を教える様子



9/26 サイエンスフェスティバル  
参加者にスーパーボールの作り方を教える様子



1/31 歩くスキー  
十種ヶ峰に登り昼食を作成する様子

#### ◆実施に伴う効果

- ・市内に大学がないため、普段知り合う機会のない大学生と交流したり、大学施設を見学したりすることで新たな体験や自分の将来について考える機会を得ることができた。
- ・山口大学教育学部と連携したことで、山口大学の教授より「教育学部生の実地研修のよい機会になっている。」と評価され、大学教授の会議等でもその活動を紹介していただいた。
- ・学校関係者から子どもたちが積極的に発言したり、友だちと関わったりするようになったといった感想をいただいた。
- ・参加した子どもたちから「また来年も参加したい。」といった意欲的な感想をいただいた。
- ・市内広域の子どもたちが交流を通して連帯感をもつことができた。
- ・自然体験等により「大人」の思いや願いを知ることで、仕事による自己実現へのヒントを得る事が出来た。

#### ◆苦勞した点

- ・参加者の実費負担を減らすこと  
今年度は、貴財団の支援の他に地元の企業や団体に協力を求めることで、参加者の負担（食材費・活動費）を減らすことができた。次年度以降は、企業に活動の内容を理解していただくように、企業へのPR用のチラシを作成し活動への理解を求めていきたいと考えている。
- ・企画・連絡調整  
夢サポートながとリーダー養成講座（夢つなぎ塾）のねらいに沿った活動を企画し、協力団体・学校との連絡調整に苦勞した。また、活動日が土・日になるため、地域の行事や参観日等と重なることがあったので、参加対象の児童・生徒が、より参加しやすい実施日を設定していきたいと考えている。

#### ◆今後の課題・発展の方向性

- ・活動内容の周知  
今年度は、「夢サポートながとリーダー養成講座（夢つなぎ塾）」の活動が市内で発行されている市報等にも取り上げていただいた。来年度は、市のケーブルテレビ等にも働きかけ、活動内容のレポート番組編成を提案し、広く市民へ周知できるように取り組むことで、企業の協力や市民の理解につなげていきたいと考えている。
- ・各団体との連携の拡大  
今年度は、小・中・高・大の縦の連携や「わくわく土曜塾」などの青少年育成団体との連携ができた。また、地域で活動する「ゆやアウトドアクラブ」や塩工房「百姓庵」、更にサイエンスフェスティバル実行委員会との横の連携により、長門市のよさを感じることができた魅力的で多様な体験をさせることができた。来年度は、地域で活躍する人材や団体との連携をさらに拡大・強化し、長門の自然のすばらしさや人の温かさにスポットを当てて子どもたちによる情報発信に取り組みたいと考えている。

#### ◆活動を終えての感想・意見等

本年度は、マツダ財団様から助成金をいただき大変感謝しています。  
来年度も、高校・大学を含む学校関係や公民館、地域で活動している団体と連携し、「新たな発見ができる活動」「様々な人とかかわる活動」「長門のよさを感じることが出来る活動」を体験させることを通して、夢を育み前向きに取り組んでいこうとする子どもたちを育てていきたいと考えています。

本年度はご支援をいただいたことに大変感謝しております。ありがとうございました。

第31回(2015年度) マツダ財団市民活動支援 贈呈式



《広島県》



《山口県》



《食べて語ろう会》



《防災教育を進める北小と地域の会》



《今津にホテルを増やし隊》



《見たい・知りたい・内浦探検隊》



《広島市立大州小学校 カンナプロジェクト》



《正木地区ホテルの里復元会》



《大野第六区子どもの居場所づくり委員会》



《広島市佐伯区彩が丘連合町内会》



《まちなみ保存振興会(東城応援隊)》



《祇園まちづくりプランプロジェクト》



《NPO 法人 ミニミニ外国 in 広島》



《一般社団法人 広島青年会議所  
子供の自立育成委員会》



《広島県シェアリングネイチャー協会》



《一般社団法人  
ドリームマップ普及協会 広島支部》



《音楽療法グループ ピリカ》



《湯来のまち再生プロジェクト協議会》



《クローバーの会(発達障がい児を持つ親の会)》



《広島干潟生物研究会》



《たつじんくらぶ》



《ぐるぐる海友舎プロジェクト実行委員会》



《あきおおた国際音楽祭 実行委員会》



《ひろしま輪輸プロジェクト》



《NPO 法人 LOVE ECO 周南》



《おごおりウィークエンドアドベンチャー実行委員会》



《遊楽の里》



《右田教育会》



《創作・風鎮神楽会》



《浅江まちづくりの会》



《幕末体験「育英塾」実行委員会》



《夢サポート ながとリーダー養成講座実行委員会》

マツダ財団青少年健全育成市民活動支援

第30回(2014年度)

※下記一覧の団体名等は、申請応募時の記載に従う。

活 動 名	団 体 名	地 域
届けよう子どもたちに 甲田の民話「とんかちり」	甲田町地域振興連合会	広島県安芸高田市
馬洗川環境美化活動	NPO 法人みよし子育て・学び支援あすなろ	広島県三次市
鹿川小学校&中町小学校環境総合学習支援事業	能美脱温暖化未来会議	広島県江田島市
地域の子育て支援の為にフリースペース、ものづくり、遊びの企画、リズム遊びなどを実施	みんなの寺子屋	広島県広島市
冒険遊び場 in ひろせふれあいの丘	ひろせ冒険遊び場運営委員会	広島県福山市
カンナがつなぐ平和のバトン ーカンナプロジェクト	広島市立大州小学校 カンナプロジェクト	広島県広島市
障がい児が主体の音楽活動	くちたにこにこくらぶ	広島県広島市
自閉症・知的障がい・肢体不自由児の音楽サークル	ぼこあぼこ	広島県広島市
バリアフリー・プロジェクト ～いつでもだれでも集まれる拠点作り～	特定非営利活動法人夢の広場ようこそ	広島県広島市
互理プロジェクト「TEAM わっこう」	学生ボランティア団体 OPERATION つながり 震災復興ボランティア事業部	広島県東広島市
行動人であれ！未来の地球のためにー広島からアマゾンへー 若者による先住民との交流・国際理解活動	(特活)熱帯森林保護団体ひろしま	広島県広島市
冒険遊び場 てんぐりかっぱ 遊具修繕及び作業小屋補強事業	冒険遊び場 てんぐりかっぱ	広島県福山市
郷土料理で繋ぐ健康な地域づくり	一般社団法人 農・食・医 同源研究センター	広島県広島市
いのちの教室	特定非営利活動法人 SPICA	広島県広島市
地域住民・栗原小学校等の連携による環境保全活動 (30周年記念誌発行事業)	栗原地区地球温暖化対策地域協議会	広島県尾道市
広島県の学生による、広島県の学生の“ポジティブな社会的影響力の向上”を目指したプロデュースプロジェクト	Port+ project	広島県東広島市
みんなでつくろう！わがまち公園マップ	チャイルドリーフ	広島県安芸郡
安地区まちづくりブランプロジェクト「おとなりさん」	安地区まちづくりブランプロジェクト「おとなりさん」	広島県広島市
ひがしひろしま音楽キャラバン/生の音楽に接する事が難しい環境の子ども達のための音楽事業	東広島青少年オーケストラ運営委員会	広島県東広島市
青少年のロボット競技へのチャレンジ活動 ～「マツダ財団オープン大会」の開催～	ロボカップジュニアジャパン広島ブロック運営委員会	広島県広島市
まちづくり=ひとづくり ～人と人との心をつなぐ～ さんさんキャンプ・5周年イベント	さんらいず	広島県広島市
陽だまり発！子どもの居場所づくり	特定非営利活動法人 陽だまり	広島県東広島市
ソーシャルスキルアップ支援事業 ～カカオチームの接客マナー研修とスピーチ活動～	日本ダウン症協会広島支部えんげるふいっしゅ	広島県広島市
忍者まちをはしる！三次の巻	NPO 法人三次おやこ劇場	広島県三次市
児童(低学年)のメンタルヘルス対策「ストレスマネジメントをプログラム化し、ストレスに強い子どもを育てよう！」	タッチ・コミュニケーションを楽しむ会 in 佐東	広島県広島市
湯来こども教室	湯来のまち再生プロジェクト協議会	広島県広島市
ボランティアリーダー育成とボランティア活動の実践(広島と福島の中高生の交流を通して)	高校生災害復興支援ボランティア派遣隊	広島県広島市
地域における高校生・大学生のキャリア教育	特定非営利活動法人ひろしまジーン大学	広島県広島市
発達に何らかの課題のある中学生・高校生の居場所づくり	発達に何らかの課題のある中・高校生のサロン「てらこや」運営委員会	広島県福山市
地域で育てる地域の子どもたち ～運営協議会の新たな試み 子どもクラブ～	長門市中央公民館運営協議会「子どもクラブ」担当	山口県長門市
宇部市レクリエーション協会 40周年記念 兼 あそびの城10周年特別体験事業	宇部市レクリエーション協会	山口県宇部市
通学合宿「たかみず」	高水通学合宿実行委員会	山口県周南市
～子どもと読書の橋渡し～ 子どももおとなも本の世界を楽しもう！	おはなしの会「おひさまにここ」	山口県宇部市
第21回青少年日韓交流	社会福祉法人 防府海北園	山口県防府市
小中学生に郷土の収集民俗資料と歴史資料の体験学習	牟礼郷土誌同好会	山口県防府市
虹の鯉のぼりプロジェクト	浅江まちづくりの会	山口県光市
理系子ども育成応援活動	特定非営利活動法人 山口科学技術子供フォーラム	山口県防府市
つながる、つなげる、こどもキャンプ2014	認定 NPO 法人こどもステーション山口	山口県山口市
アクティブシニア住民力による青少年育成 (自治会創立 48周年記念事業)	彦島山中町自治会	山口県下関市
合 計	39件 1,000万円	

第 29 回 (2013 年度)

活 動 名	団 体 名	地 域
生徒のための日本語学習支援	NPO こどものひろばヤッチャル	広島県東広島市
千羽鶴ファクトリー構想の推進事業	特定非営利活動法人千羽鶴未来プロジェクト	広島県広島市
つながれ！あなたも私も「復興者」！	学生ボランティア団体 OPERATION つながり 震災復興ボランティア事業部	広島県東広島市
ロボット競技へのチャレンジを通じた知的好奇心の醸成活動	ロボカップジュニアジャパン広島ブロック運営 委員会	広島県広島市
映画製作参加による青少年育成プログラム	市民活動で映画製作をする会	広島県広島市
子どもシェルターの運営	特定非営利活動法人ビビオ子どもセンター	広島県広島市
広島県居住の外国人に対する日本語学習機会の提供と異 文化理解を深める交流	日本語教室ピース	広島県東広島市
10 周年記念！ぼくたちのキャンプファイヤー場をつくる 100 人の夏 CAMP(1泊2日)&10周年記念誌づくり	NPO 法人ほしはら山のがっこう	広島県三次市
戸河内小学校夢配達人プロジェクト 手作り間伐材鉛筆・遊 具づくり	戸河内小学校夢配達人プロジェクト実行委員 会	広島県山県郡
よみがえれ！永慶寺川のホタルたち	NPO 法人おおの風	広島県廿日市市
中高校生を被災地の役に立てる人材に育てる事業:第2ステ ージ	特定非営利活動法人よもぎのアトリエ	広島県広島市
カンナがつなぐ 平和のバトナーカンナプロジェクトー	広島市立大州小学校カンナプロジェクト	広島県広島市
大朝小学校における環境学習の推進に伴う課題解決のた めの実施計画再構築事業	大朝地域資源保全隊	広島県山県郡
「鞆の町再発見」の旅	福山市立鞆小学校鞆探検クラブ	広島県福山市
若年者を対象とした農業ボラバイト事業	NPO 法人いきいき農業応援し隊	広島県広島市
探検クラブ	特定非営利活動法人これからの学びネットワ ーク	広島県広島市
青少年主体性育成プログラム(国際分野)	ワンダー・ティーンズ	広島県広島市
子どもと大人の世代を越えたディスカッションイベント「こどな ひろば」の開催	こどなひろば中国支部	広島県広島市
子ども中心の伝統芸能”狩留家シャギリ”の復活	特定非営利活動法人NPO狩留家	広島県広島市
災害時、まず「いのちを自分で守る～自助～」	府中町災害ボランティア赤十字奉仕団	広島県安芸郡
いのちの教室	特定非営利活動法人SPICA	広島県広島市
福島と広島の子供たち 夢のコンサート	福島と広島をつなぐ会	広島県広島市
震災移住親子と仲良く学ぶ魚魚(とと)教室	呉市市民公益活動団体Team JIN「仁」	広島県呉市
学生ボランティア「ほんわかプロジェクト」による、積雪地の高 齢者宅等での除雪及び島しょ部での柑橘農家の支援	ほんわかプロジェクト応援団	広島県東広島市
第 16 回 日本ジャンボリー	日本ボーイスカウト山口県連盟山口第3団	山口県山口市
こどもっちゃ！商店街	こどもっちゃ！商店街実行委員会	山口県周南市
「SL べんけい号の復元」をテーマにした地域活性化と子育て 支援イベントの開催	下松べんけい号を愛する会	山口県下松市
子供達と自然に学ぶ	ボランティア琴音の風	山口県防府市
チャイルドラインやまぐち開設 10 周年記念 チャイルドライン 夢メッセージ展	NPO 法人子ども劇場山口県センター	山口県宇部市
小学生からゴミ問題対策教育	彦島山中町自治会	山口県下関市
こども元気塾 with 清光	こども家庭支援センター清光	山口県山口市
合 計	31件 800万円	

## 市民活動支援

### 1. 募集・応募・選出状況

第31回(2015年度)青少年健全育成市民活動支援を以下により実施しました。

#### (1) 募集

募集要項記載概要は、以下のとおりです。

- |              |  |
|--------------|--|
| (a) 対象活動     | 青少年の健全育成を目的とした、民間の非営利活動<br>①自然とのふれあい ②ボランティア育成 ③地域連帯<br>④エコ ⑤国際交流・協力 ⑥科学体験・ものづくり |
| (b) 募集地域     | 広島県、山口県  |
| (c) 支援期間     | 単年度支援 2015年4月1日～2016年3月31日の1年間   |
| (d) 支援金総額    | 800万円  |
| (e) 1件当り支援金額 | 10万円～50万円  |
| (f) 募集期間     | 2014年10月15日～2015年1月13日   |

#### (2) 応募状況

締切日までに98件の応募を受理しました。その内訳は、以下のとおりです。

- |         |             |          |
|---------|-------------|----------|
| (a) 地域別 | ・広島県        | 28件(29%) |
|         | ・広島市        | 46件(30%) |
|         | ・山口県        | 24件(33%) |
| (b) 分野別 | ・自然とのふれあい   | 15件(16%) |
|         | ・ボランティア育成   | 14件(14%) |
|         | ・地域連帯       | 55件(56%) |
|         | ・エコ         | 5件(5%)   |
|         | ・国際交流・協力    | 5件(5%)   |
|         | ・科学体験・ものづくり | 4件(4%)   |

#### (3) 支援対象の選出

選考委員会(2015年2月23日、24日開催)での審議の結果、支援候補として、総計30件800万円が選出され、2015年3月18日開催の第20回理事会において正式に承認決定されました。

#### (4) 支援金贈呈書の贈呈

- ・広島県 2015年4月20日、マツダ株式会社本社で贈呈式・交流会を開催。広島県内の22団体に対して、支援金贈呈書を贈りました。
- ・山口県 2015年4月22日、マツダ株式会社防府工場で贈呈式・交流会を開催。山口県内の8団体に対して、支援金贈呈書を贈りました。

## 2. 支援件数の推移

本年度を含む3年間の支援件数、内訳は次のとおりです。

### (応募件数および支援件数)

	本年度(第31回) 2015年度	第30回 2014年度	第29回 2013年度
応募件数 (件)	98	110	100
支援件数 (件)	30	39	31
支援比率 (%)	31	35	31
支援金総額 (万円)	800	1,000	800

### (地域別状況)

地 域	2015年度		2014年度		2013年度	
	応募件数	支援件数	応募件数	支援件数	応募件数	支援件数
広島県 (件)	28	8	33	13	41	11
広島市 (件)	46	14	48	16	36	13
山口県 (件)	24	8	29	10	23	7
合計 (件)	98	30	110	39	100	31

### (分野別状況)

分 野	2015年度		2014年度		2013年度	
	応募件数	支援件数	応募件数	支援件数	応募件数	支援件数
自然とのふれあい (件)	15	6	22	6	22	5
ボランティア育成 (件)	14	2	13	5	12	5
地域連帯 (件)	55	16	50	21	39	12
エコ (件)	5	3	4	1	6	1
国際交流・協力 (件)	5	1	9	2	12	4
科学体験・ものづくり (件)	4	2	12	4	9	4
合計 (件)	98	30	110	39	100	31

## 役員・評議員名簿

平成 28 年(2016 年)7 月 1 日現在

財団役職	常・非常勤	名 前	役 職
理 事 長 (代表理事)	非	金 井 誠 太	マツダ株式会社代表取締役会長
専務理事 (代表理事)	非	吉 原 誠	マツダ株式会社執行役員・総務・法務室長
常務理事 (業務執行理事)	常	魚 谷 滋 己	公益財団法人マツダ財団事務局長
理 事	非	上 田 宗 岡	上田宗箇流家元
理 事	非	岡 谷 義 則	株式会社中国新聞社代表取締役社長
理 事	非	高 橋 超	広島大学監事
理 事	非	浜 中 典 明	公益財団法人広島市文化財団常務理事
理 事	非	平 谷 優 子	弁護士
理 事	非	山根 八洲男	広島大学特任教授
監 事	非	高 橋 義 則	公認会計士
監 事	非	藤 本 哲 也	マツダ株式会社常務執行役員
評 議 員	非	安 藤 周 治	特定非営利活動法人ひろしま NPO センター代表理事
評 議 員	非	大 杉 節	広島大学宇宙科学センター特任教授
評 議 員	非	越 智 光 夫	広島大学長
評 議 員	非	小 柴 是 睦	公益財団法人中国電力技術研究財団専務理事
評 議 員	非	佐 藤 次 郎	一般財団法人日本語教育振興協会理事長
評 議 員	非	佐 野 庸 治	広島大学大学院工学研究院長
評 議 員	非	進 士 正 人	山口大学大学院理工学研究科長・工学部長
評 議 員	非	竹 林 守	マツダ株式会社名誉相談役
評 議 員	非	中 村 健 一	県立広島大学長
評 議 員	非	長 尾 ひろみ	公益財団法人広島県男女共同参画財団理事長
評 議 員	非	農 沢 隆 秀	マツダ株式会社技術研究所技監
評 議 員	非	吉 田 総 仁	広島大学副学長
評 議 員	非	渡 辺 一 秀	マツダ株式会社相談役

(五十音順・敬称略)

**NOTE:**

この概要はマツダ財団が 2015 年度に支援を行った  
「青少年を育むための市民活動」30 件の活動のひとつです。

お問い合わせは、マツダ財団事務局へ

住所: 〒730-8670 広島県安芸都府中町新地 3-1 マツダ(株)内

TEL: (082)285-4611

FAX: (082)285-4612

E-mail: [mzaidan@mazda.co.jp](mailto:mzaidan@mazda.co.jp)

ホームページ: <http://mzaidan.mazda.co.jp/>

**マツダ財団市民活動支援とは**

次代を担う子どもたちが、いろいろなことに興味を持ち、多くの感動を得ることのできる生活体験の機会の提供や地域社会づくりのための諸活動を支援。

**対 象** 青少年の健全育成を目的とした、主に民間の非営利活動。  
自然とのふれあい、ボランティア育成、地域連帯、エコ、国際交流・協力、科学体験・ものづくりの各場面で、特に、子どもたちの参画度の高い活動、創意工夫を育てる活動や、地域での様々なささえあい活動、学校と地域が連携する活動、次世代のリーダーを育てる活動、東日本大震災復興支援活動等を支援。  
青少年の範囲は概ね 6 歳～24 歳。

**募集期間** 毎年 10 月中旬～翌年 1 月中旬 活動は翌年 4 月以降に実施されるもの  
(4 月 1 日より即実行できるよう、年度開始前に募集し、支援を決定します。)

**募集地域** 広島県、山口県

**支援金額** 1 件当たり 10 万円～50 万円